

継続的な改善活動のために！

2023

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 大澤 敏

令和4年の大学進学率は56.6%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。また、18歳人口激減期に突入し、本学入学者の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けるためには、社会の変化に対応しながら、イノベーションを創出できる人材の育成が不可欠です。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、Society5.0時代に必要なイノベーション力を身に付けた「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に修得し、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日100科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われますが、本学では第三者の調査・分析会社に調査結果の評価分析を依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

目次

<1>	本調査の全体像	1
<2>	目的・目標意識、満足度、1年間の振り返りに関して	9
<3>	授業、学習支援に関して	15
<4>	学生生活に関して	21
<5>	進学、就職、卒業時の能力に関して	33
<6>	KIT-IDEALSに関して	53
<7>	卒業・修了生アンケートに関して	59
<8>	教職員アンケートに関して	65
<9>	全体のまとめ	73
<10>	調査票見本	159

<1-1> 調査の目的と概略

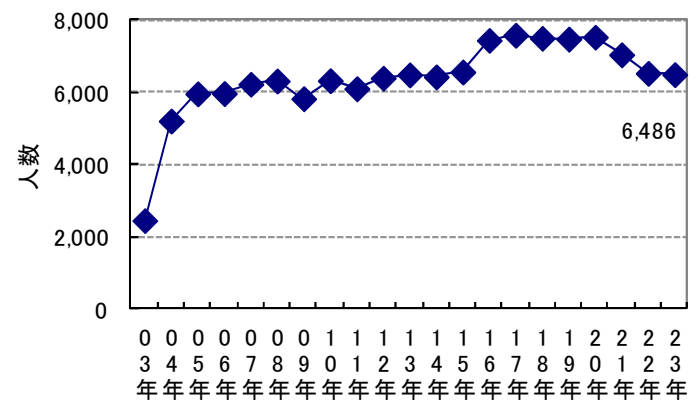
■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が21回目となる。同一内容で比較できる質問に関しては時系列変化で分析している。
- 2022年より「新入生」は別報告書でまとめている。ただし、在學生と共通の質問(基本属性と2問)は本報告書で比較している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年2月～4月に実施。 ・ 在學生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在學生」は学内で配布、「教職員」はWeb配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は6,486サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント

■ 回答者数推移(企業担当者をのぞく)



■ 年度別回収数

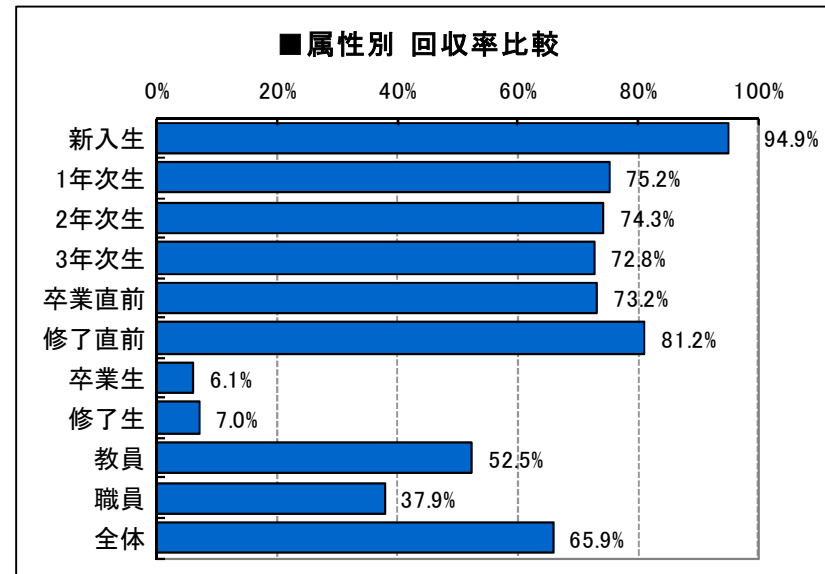
対象者	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
新入生	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604	1,541	1,641	1,592	1,627	1,458	1,551	1,428
1年次生	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519	1,361	1,384	1,438	1,395	1,435	1,107	1,193
2年次生	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439	1,497	1,422	1,321	1,389	1,318	854	1,024
3年次生	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520	1,312	1,350	1,387	1,349	1,274	1,457	1,169
卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970	1,509	1,364	1,424	1,439	1,241	1,243	1,318
卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124	121	138	124	131	153	120	86
教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134	127	106	102	120	90	113	148
職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122	106	86	78	71	63	76	120
企業担当者	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—	—	846	—	—	730	—	—	—
全体(企業除く)	2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432	7,574	7,491	7,466	7,521	7,032	6,521	6,486

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,505	1,428	94.9%
1年次生	1,586	1,193	75.2%
2年次生	1,378	1,024	74.3%
3年次生	1,606	1,169	72.8%
卒業直前	1,576	1,154	73.2%
修了直前	202	164	81.2%
卒業生	1,205	73	6.1%
修了生	186	13	7.0%
教員	282	148	52.5%
職員	317	120	37.9%
全体	9,843	6,486	65.9%

※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。



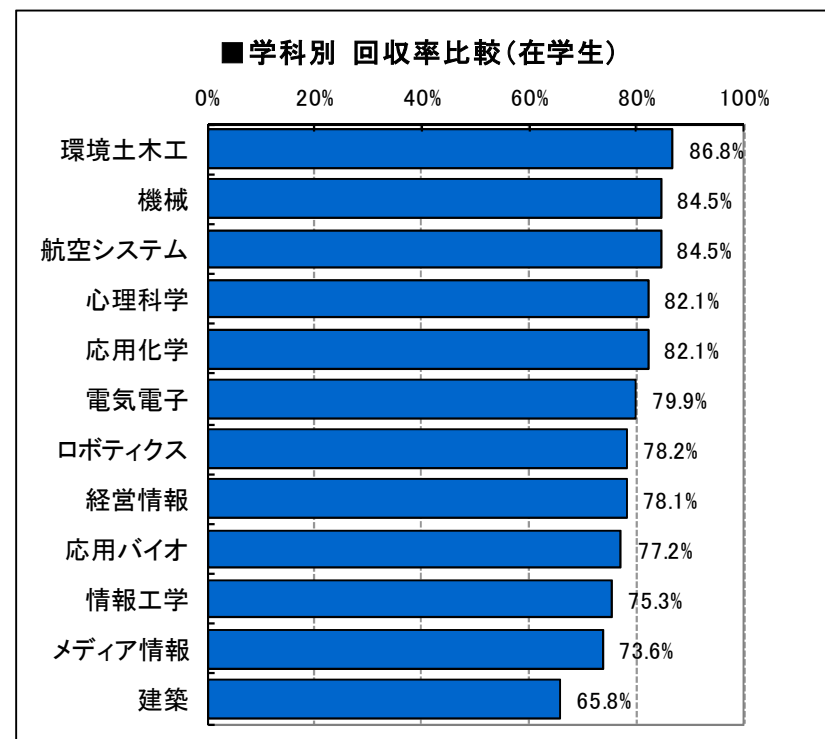
■学部別・学科別回収率(新入生、1年次生、2年次生、3年次生、卒業直前)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	4,422	3,554	80.4%	機械	930	786	84.5%
				航空システム	232	196	84.5%
				ロボティクス	481	376	78.2%
				電気電子	1,105	883	79.9%
				情報工学	1,220	919	75.3%
				環境土木工	454	394	86.8%
情報 フロンティア 学部	1,393	1,061	76.2%	メディア情報	804	592	73.6%
				経営情報	365	285	78.1%
				心理科学	224	184	82.1%
建築学部	1,140	750	65.8%	建築	1,140	750	65.8%
バイオ・化学部	696	554	79.6%	応用化学	341	280	82.1%
				応用バイオ	355	274	77.2%
全体	7,651	5,919	77.4%	全体	7,651	5,919	77.4%

※2022年からは、在学生(新入生、1年次生、2年次生、3年次生、卒業直前)はすべて12学科となっている。

※卒業生も12学科であるが、上記の表には加えていない。

※回収率に関しては、学科無回答の49名を除外して集計している。



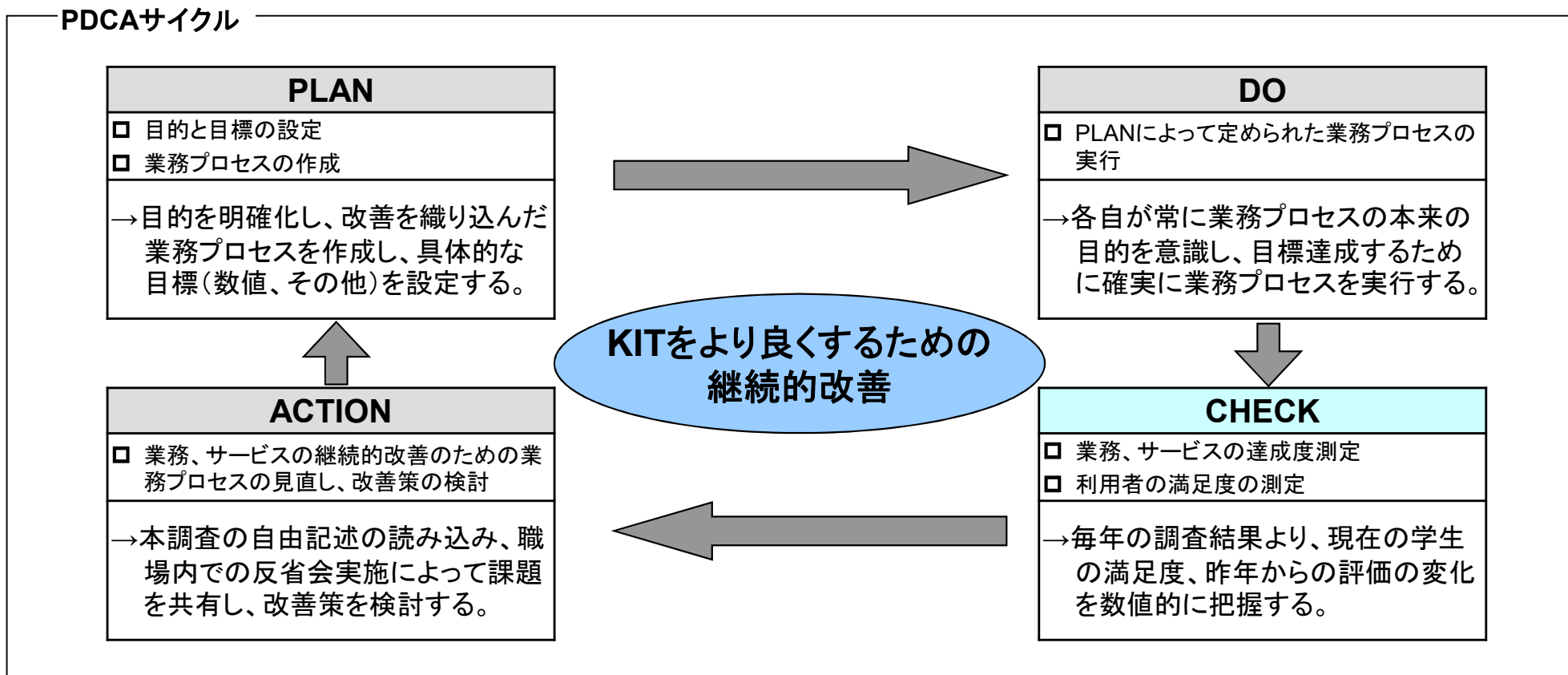
■集計に関して

分野	注意点
分析に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的・目標意識」「総合満足度」などの、重要な指標に関しては「単純集計」「年度別比較」の他に「男女別」「学年別」「学科別」などの属性別のグラフを提示し、分析を行っているが、その他の項目に関しては「単純集計」「年度別比較」のみの分析とし、属性別に関しては巻末にグラフだけを掲載している。 ・「新入生」アンケートに関しては、入試広報などに活用するために属性別の集計も分析している。また、「卒業・修了生」「教職員」に関しても属性別の分析を行っている。
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・特に但し書きがない場合は、無回答は集計から除外している。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
誤差に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。
属性別比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内では属性別比較を行っているが、「全体集計」と「属性別比較」の結果が異なっているケースもある。これは、「全体集計」ではすべてのデータが集計対象となるが、属性が未回答の場合は「属性別集計」では集計対象とならないためであり、これらの数値はそのまま表示している。
学科別集計に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年から、在学生（「新入生」「1年次生」「2年次生」「3年次生」「卒業直前」）、及び「卒業生」はすべて12学科となっている

<1-2> 調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

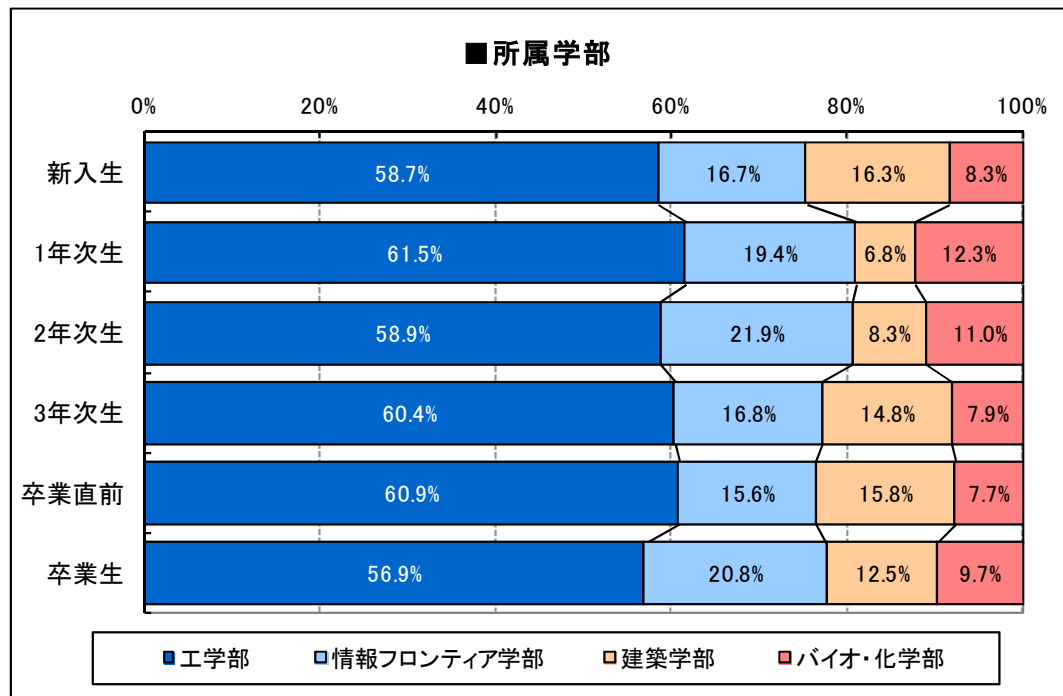
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか？」「自らが設定した目標は達成したのか？」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<1-3> 在学生・卒業生の基本属性

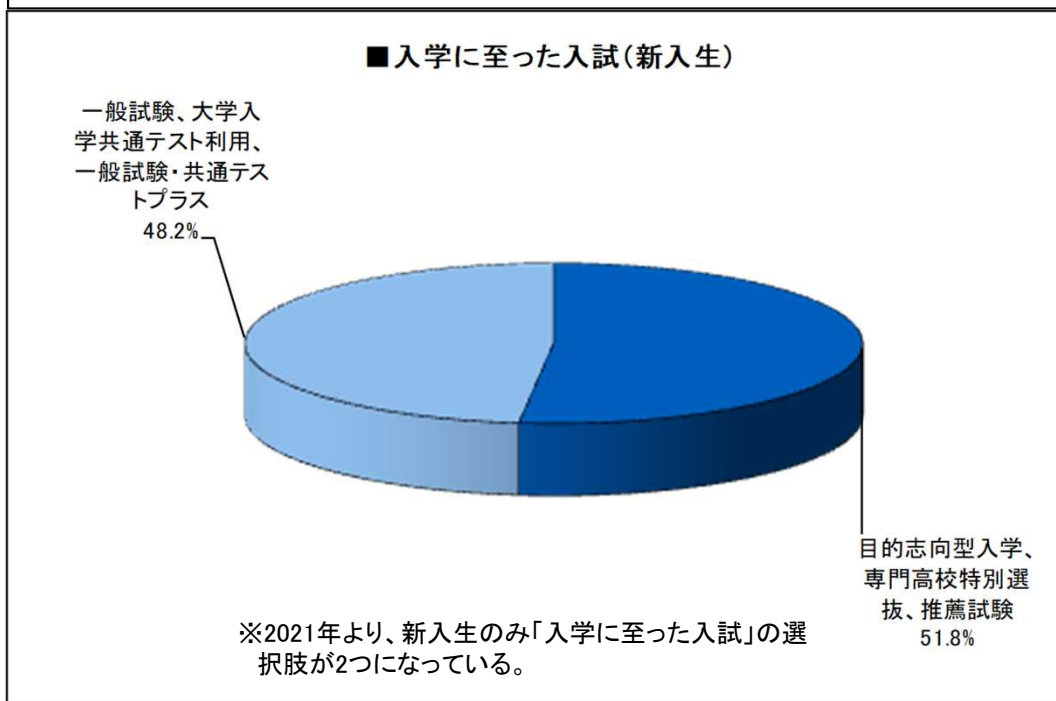
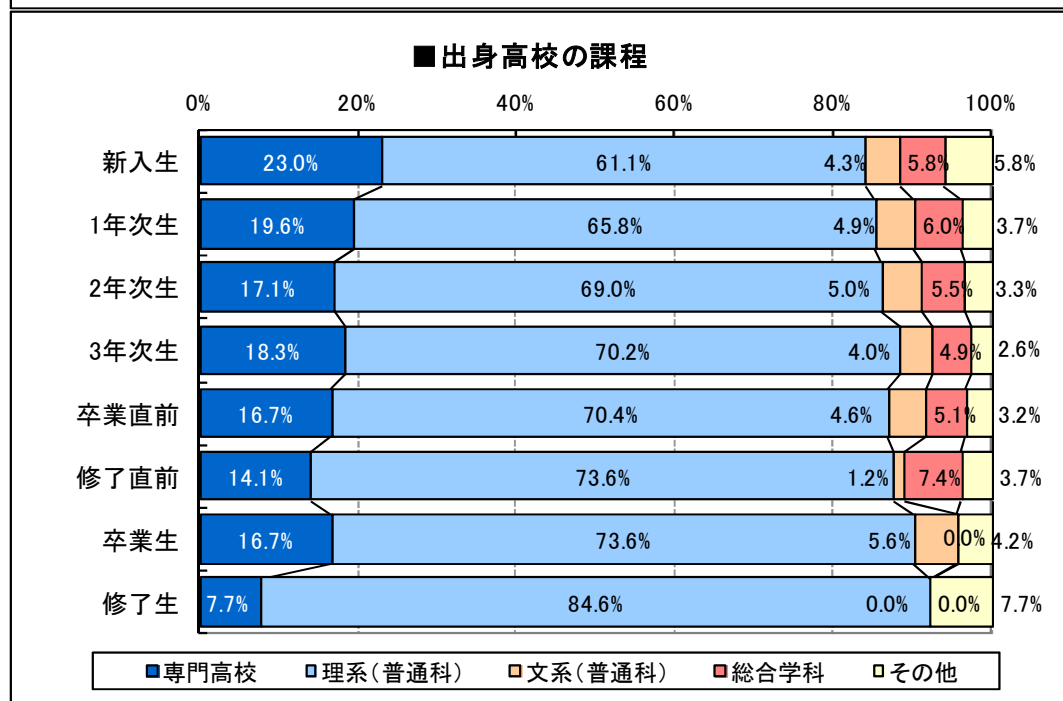
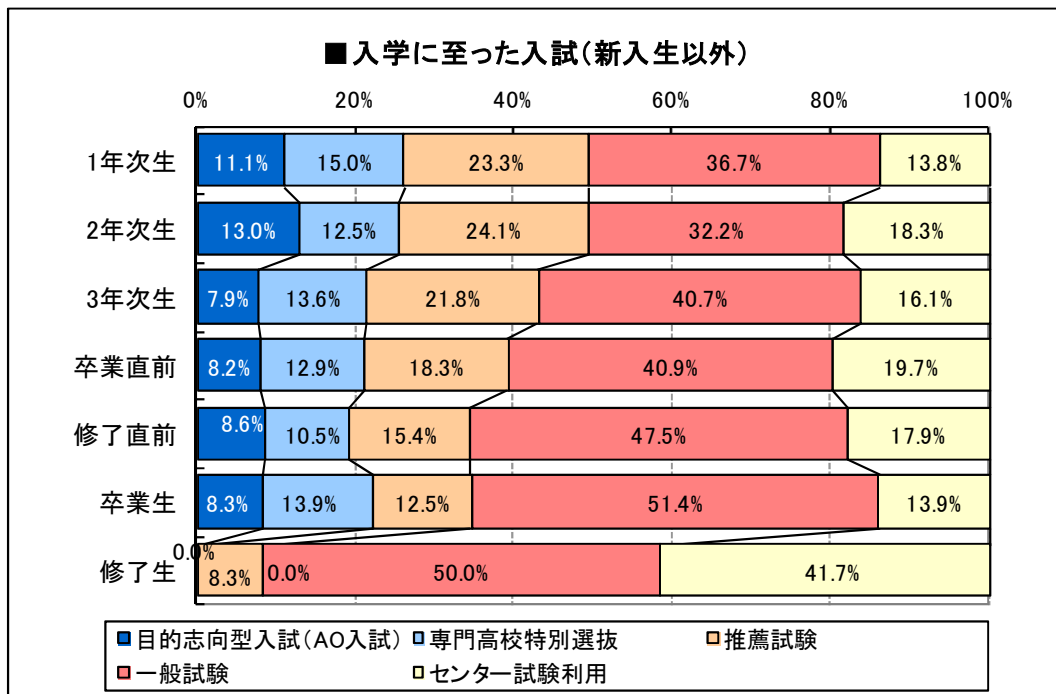
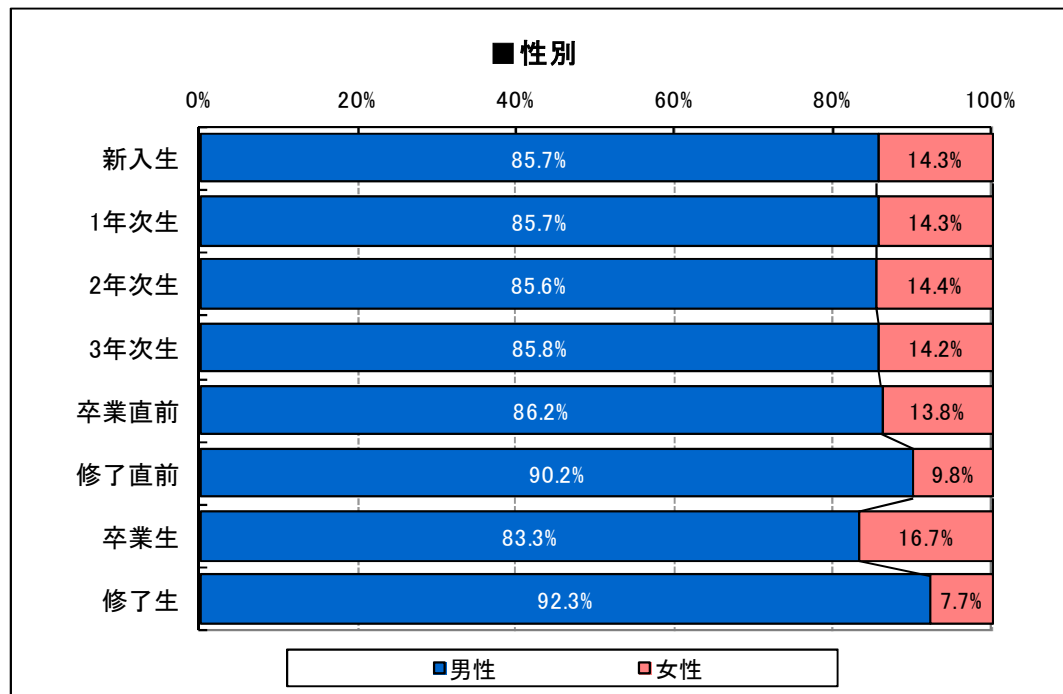
■ 所属学部、学科



■ 所属学科

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	情報工学科	環境土木工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理科学科	建築学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
新入生	12.1%	3.2%	6.5%	11.5%	19.8%	5.6%	9.0%	4.9%	2.7%	16.3%	4.5%	3.8%	100.0%
1年次生	14.0%	3.0%	5.4%	14.7%	16.7%	7.7%	11.8%	4.8%	2.8%	6.8%	6.4%	5.9%	100.0%
2年次生	13.3%	2.9%	6.7%	14.7%	15.0%	6.4%	12.6%	4.7%	4.5%	8.3%	5.0%	6.0%	100.0%
3年次生	14.9%	4.2%	7.3%	18.4%	9.2%	6.3%	9.4%	4.6%	2.8%	14.8%	4.8%	3.1%	100.0%
卒業直前	12.4%	3.3%	5.8%	16.0%	15.9%	7.5%	7.7%	5.0%	2.9%	15.8%	3.0%	4.7%	100.0%
卒業生	12.5%	5.6%	6.9%	13.9%	12.5%	5.6%	11.1%	8.3%	1.4%	12.5%	5.6%	4.2%	100.0%

■性別、出身高校の課程、入学に至った入試



■出身地域

■在学生の出身地域

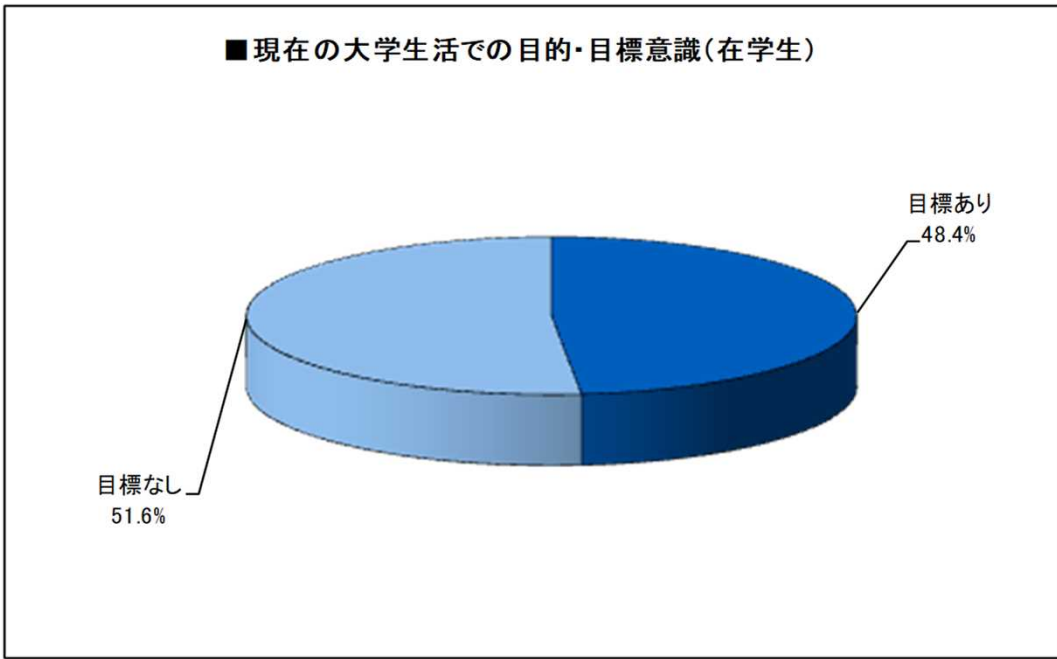
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	61	60	159	618	148	93	30	11	1,180
	5.2%	5.1%	13.5%	52.4%	12.5%	7.9%	2.5%	0.9%	100.0%
2年次生	40	62	138	487	157	87	30	12	1,013
	3.9%	6.1%	13.6%	48.1%	15.5%	8.6%	3.0%	1.2%	100.0%
3年次生	47	59	153	557	191	92	42	15	1,156
	4.1%	5.1%	13.2%	48.2%	16.5%	8.0%	3.6%	1.3%	100.0%
卒業直前	48	73	150	532	171	117	45	14	1,150
	4.2%	6.3%	13.0%	46.3%	14.9%	10.2%	3.9%	1.2%	100.0%
修了直前	7	10	15	58	36	23	8	5	162
	4.3%	6.2%	9.3%	35.8%	22.2%	14.2%	4.9%	3.1%	100.0%
全体	203	264	615	2,252	703	412	155	57	4,661
	4.4%	5.7%	13.2%	48.3%	15.1%	8.8%	3.3%	1.2%	100.0%

※新入生は47都道府県で聞いており、新入生だけの報告書に記載している。

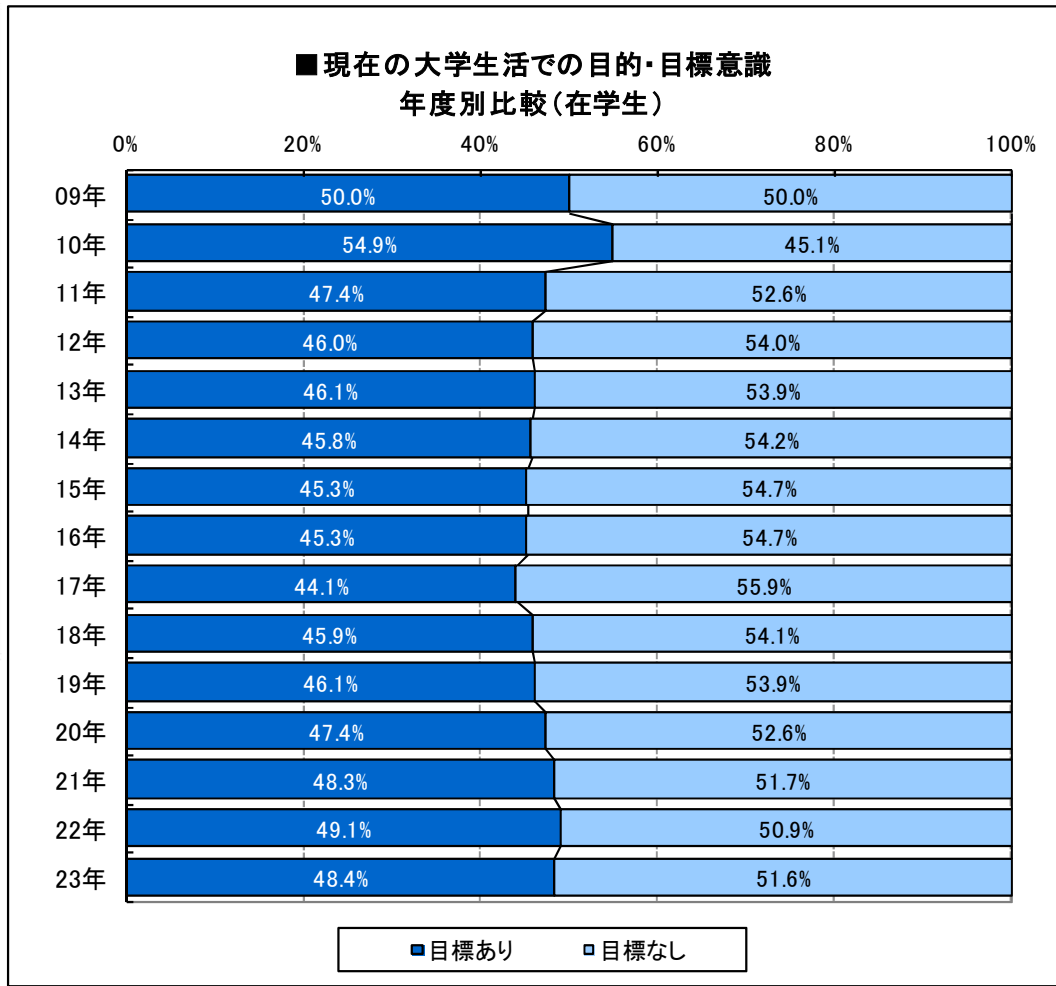
<2-1> 在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上での目的・目標の有無」は「目標あり」が48.4%、「目標なし」が51.6%と、ほぼ半々の割合となっていた。
- 年度別比較では、「目標あり」は前回は0.7ポイントとわずかに下回っていた。



目標あり(48.4%) < 目標なし(51.6%)

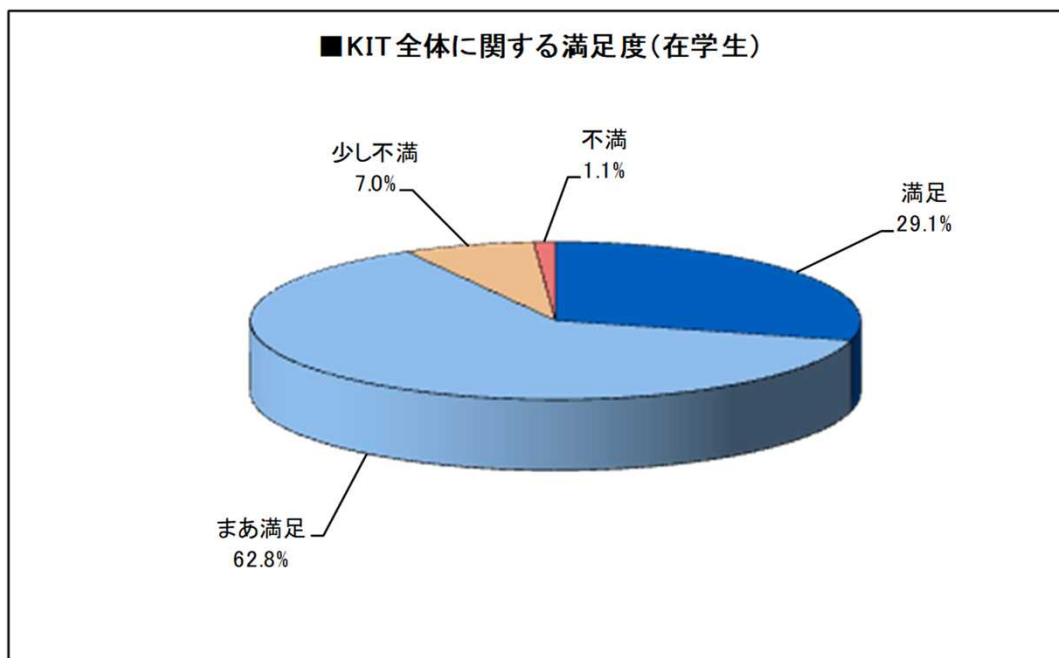


※この質問は「新入生」「在学生(卒・修直前を含む)」「卒業生」「修了生」に聞いているが、このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、次項以降のグラフは「新入生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。

<2-2>KITの総合満足度

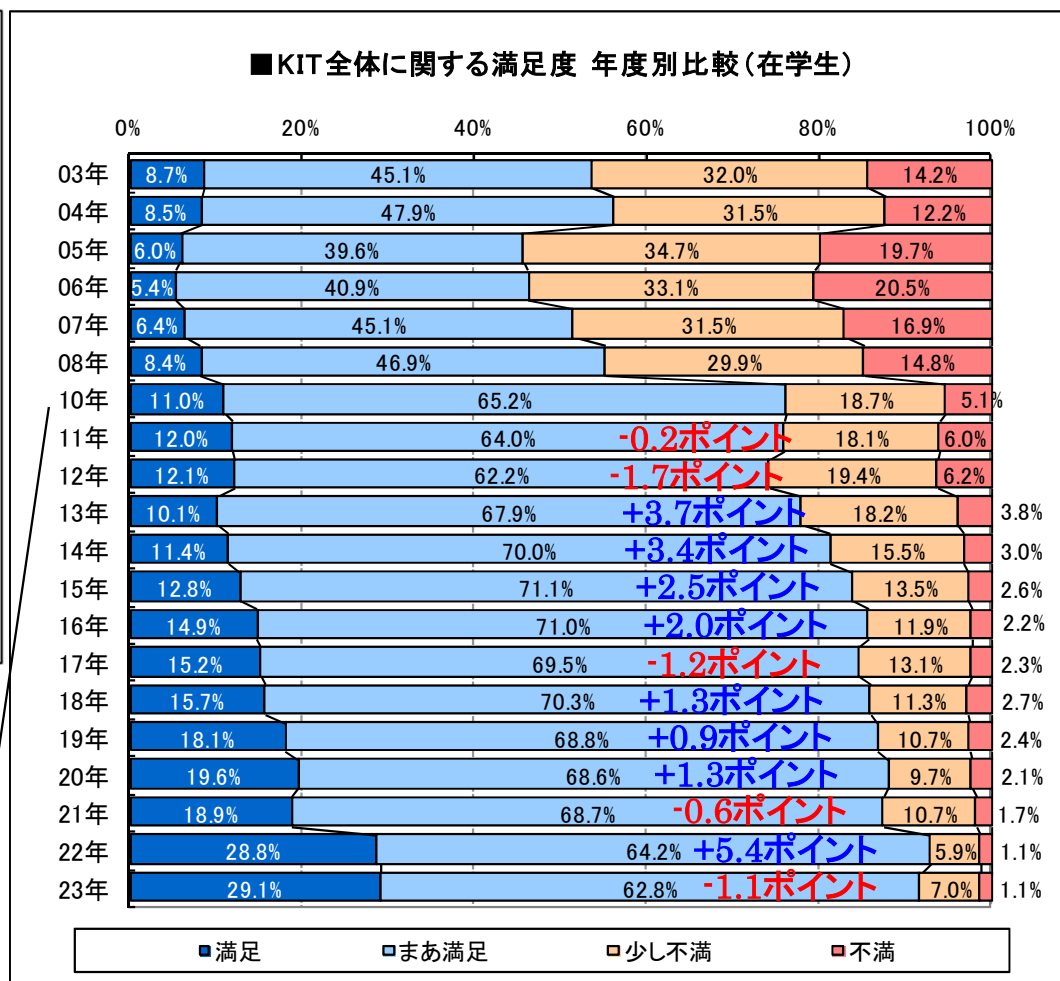
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」では、「満足」が29.1%、「まあ満足」が62.8%で、合わせると91.9%が満足という回答であった。そして、不満という回答の合計は8.1%であった。
- KITの総合満足度の質問文は、08年までは「今のKITに満足していますか？」と聞いており、09年には質問を行わなかった。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として、「満足」～「不満」を選ぶ聞き方に変更している。
- 質問が統一された10年以降の変化を見ると、満足度は12年まで横ばいで、13年以降は例外はあるものの基本的には増加傾向が続き、前回(22年)には過去最高となっていたが、今回(23年)は前回は1.1ポイントとわずかに低下していた。ただし、内訳を見ると「満足」は前回は0.3ポイント上回って過去最高となっており、強く満足している学生が多いという状況が続いていた。



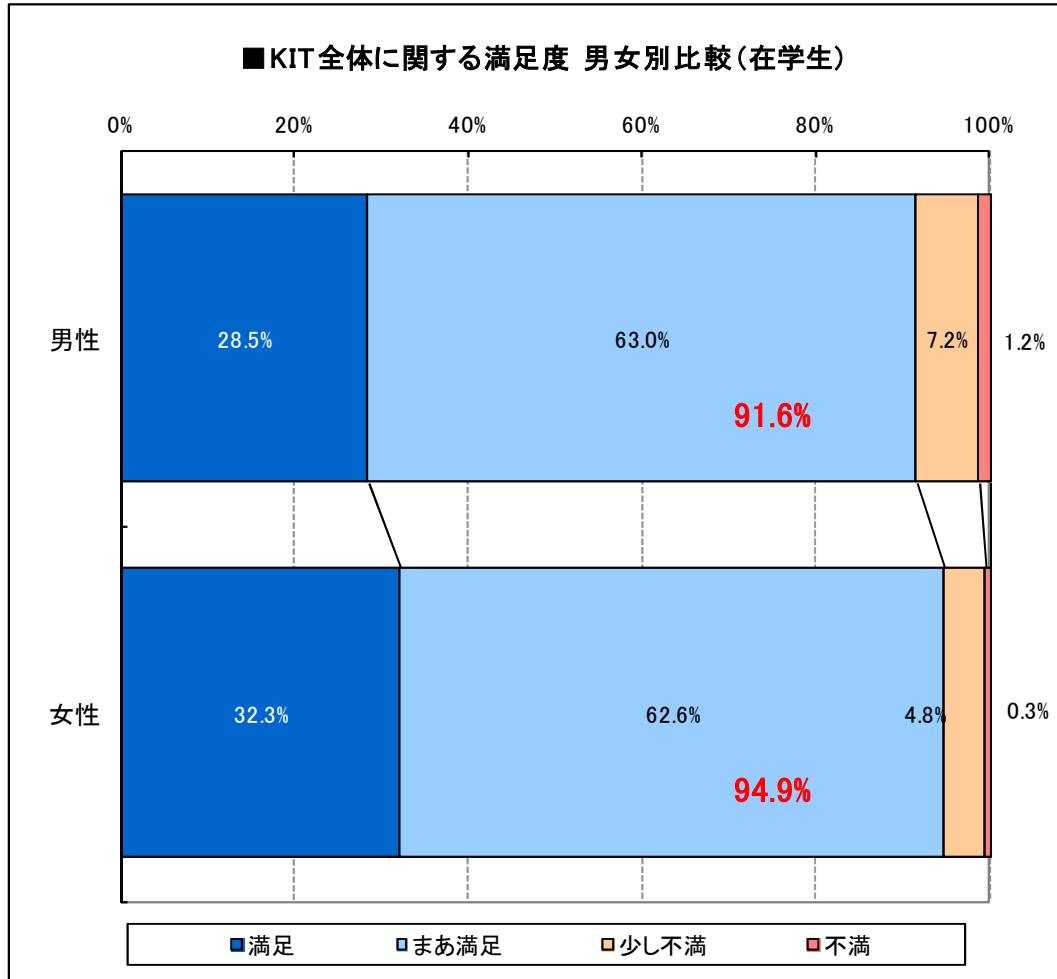
満足している(91.9%) > 不満を持っている(8.1%)

10年から聞き方が
変わっている



■KIT全体に関する満足度 男女別比較

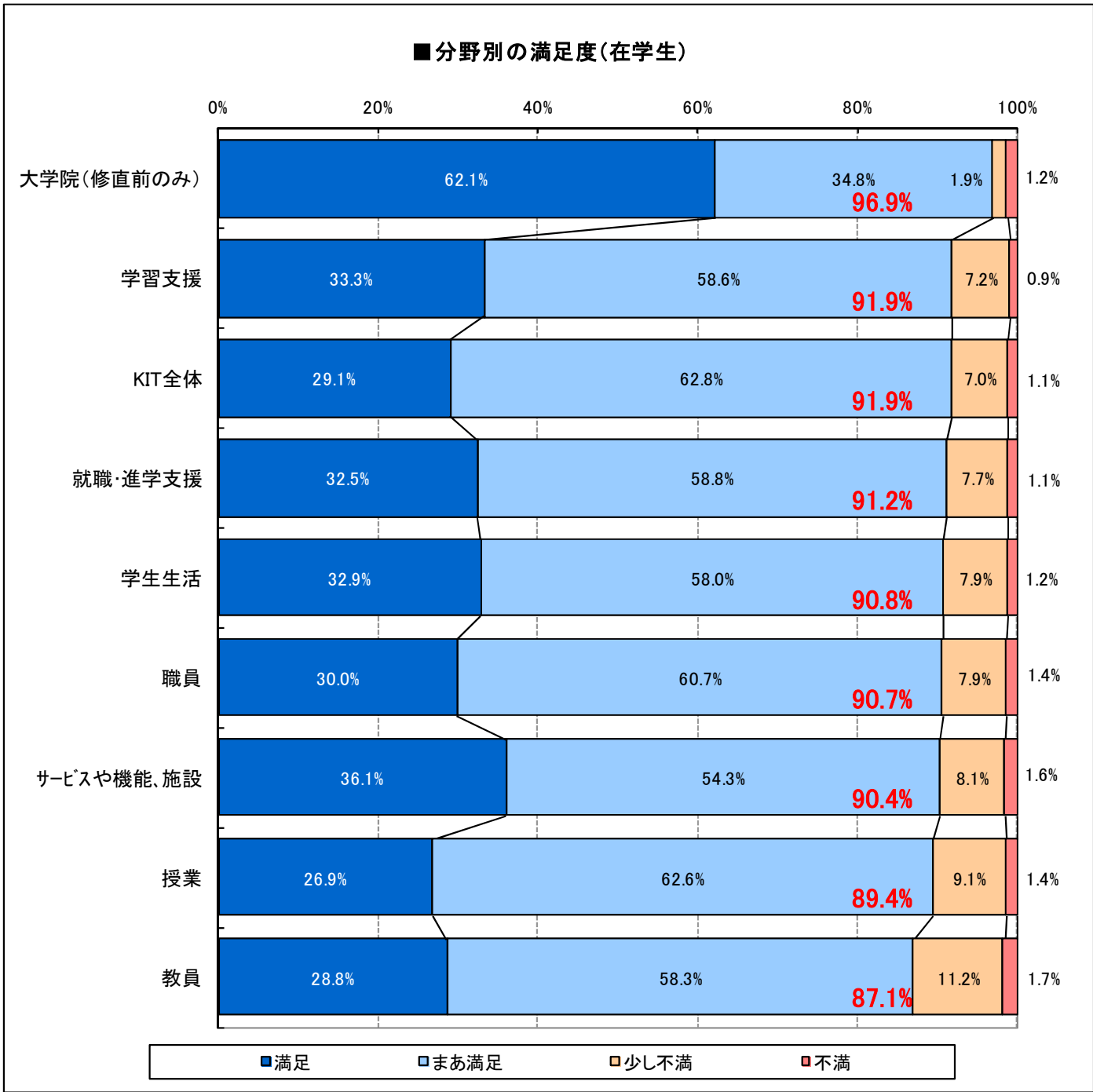
- 満足度を男女別に比較すると、「男性」が91.6%、「女性」が94.9%であり、「女性」の方が3.3ポイント多かった。



<2-3>分野別の満足度

■分野別満足度

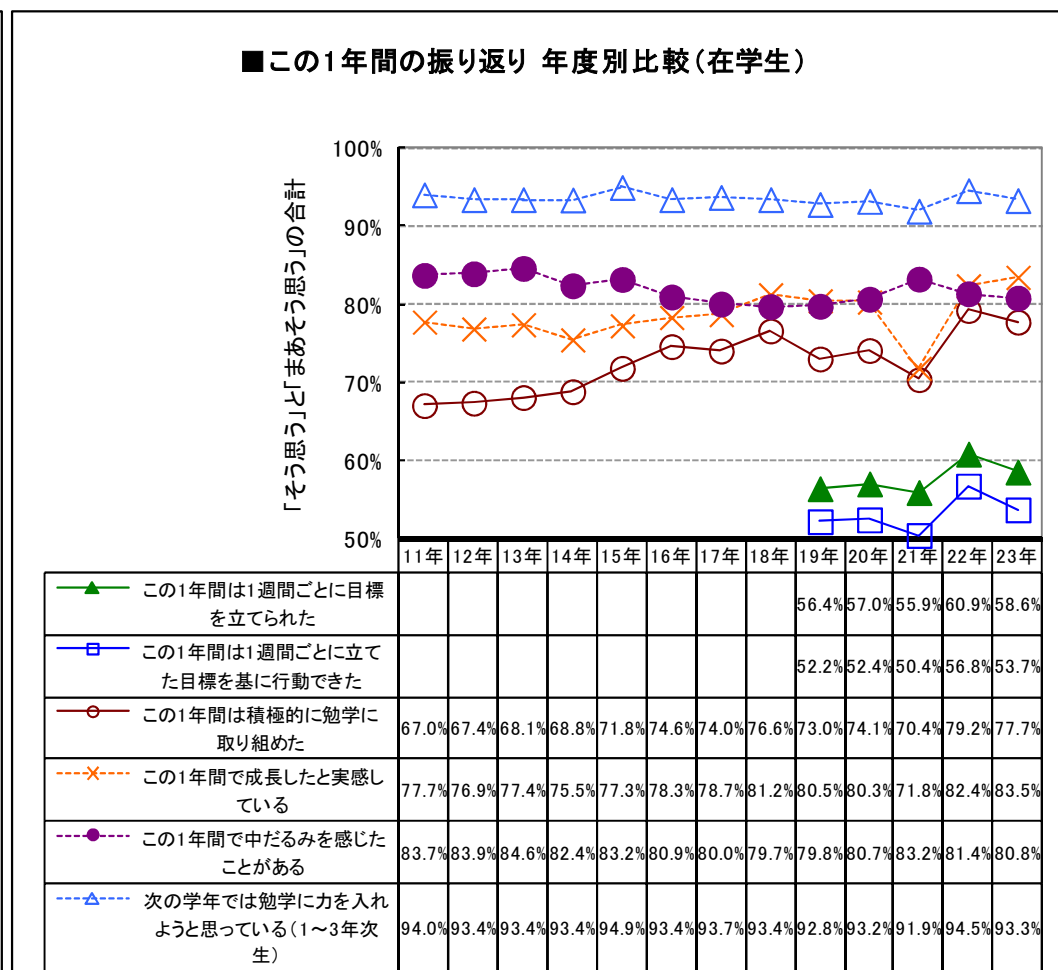
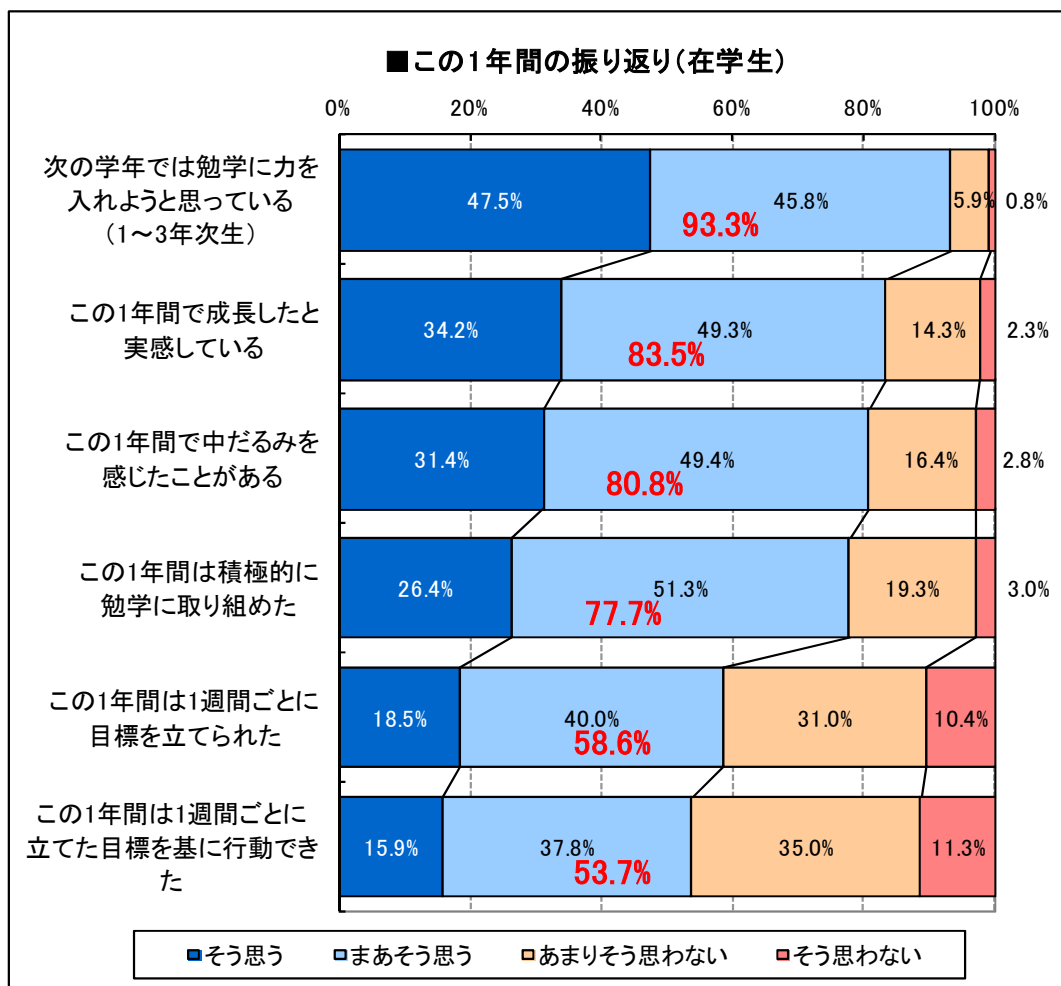
- 大学生活の9分野の満足度を見ると、最も高かったのは「大学院」の96.9%であった。この項目は「修了直前」のみに聞いているが、「満足」が62.1%と非常に多く、強く満足しているようであった。
- 上記に次いで、「学習支援」と「KIT全体」が91.9%、「就職・進学支援」が91.2%、「学生生活」が90.8%で続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「教員」の87.1%で、「授業」が89.4%で続いていた。この2項目の満足度も十分に高いものの、9割をわずかに下回っていた。



<2-4>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り 年度別比較

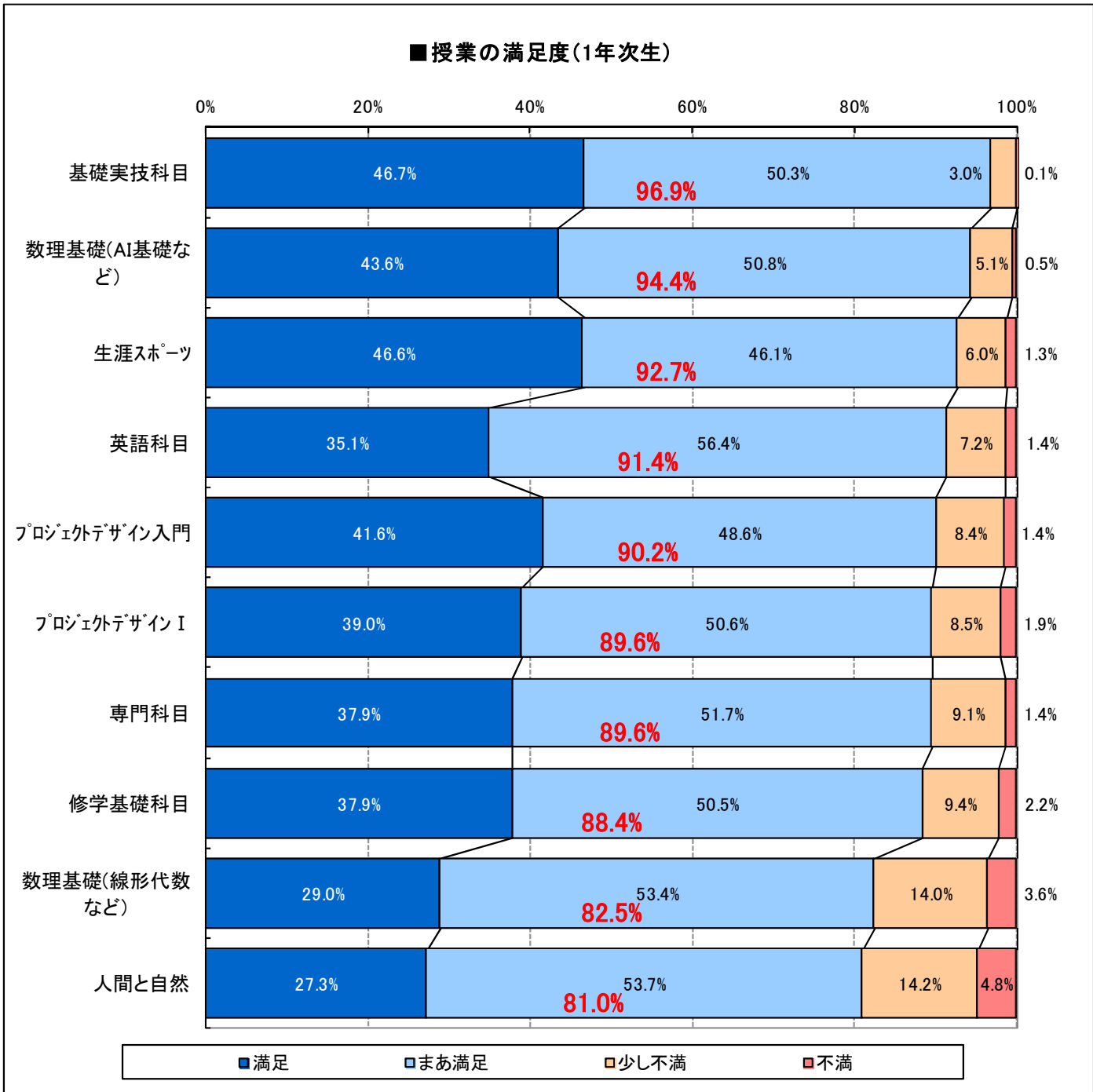
- 「この1年間の振り返り」で肯定的な意見が最も多かったのは、1～3年次生だけに聞いた「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の93.3%であり、次の学年に向けての意気込みが感じられた。
- 上記に次いで、「この1年間で成長したと実感している」が83.5%、「この1年間で中だるみを感じたことがある」が80.8%で続いていた。この2項目はポジティブな項目とネガティブな項目で相反しているが、約8割の学生が成長実感と中だるみを感じているという意見であった。
- 一方、「この1年間は1週間ごとに立てた目標を基に行動できた」と「この1年間は1週間ごとに目標を立てられた」では肯定的な意見が5割程度となっており、目標を立てることと、それに基づく行動に対する苦手意識が感じられた。
- 年度別の比較を見ると、全体的に大きな変化は見られなかったが、ほとんどが前年を下回っていた。ただし、「この1年間で成長したと実感している」という回答はわずかな差ではあるが、唯一、前年を上回って過去最高となっていた。



<3-1>授業の満足度

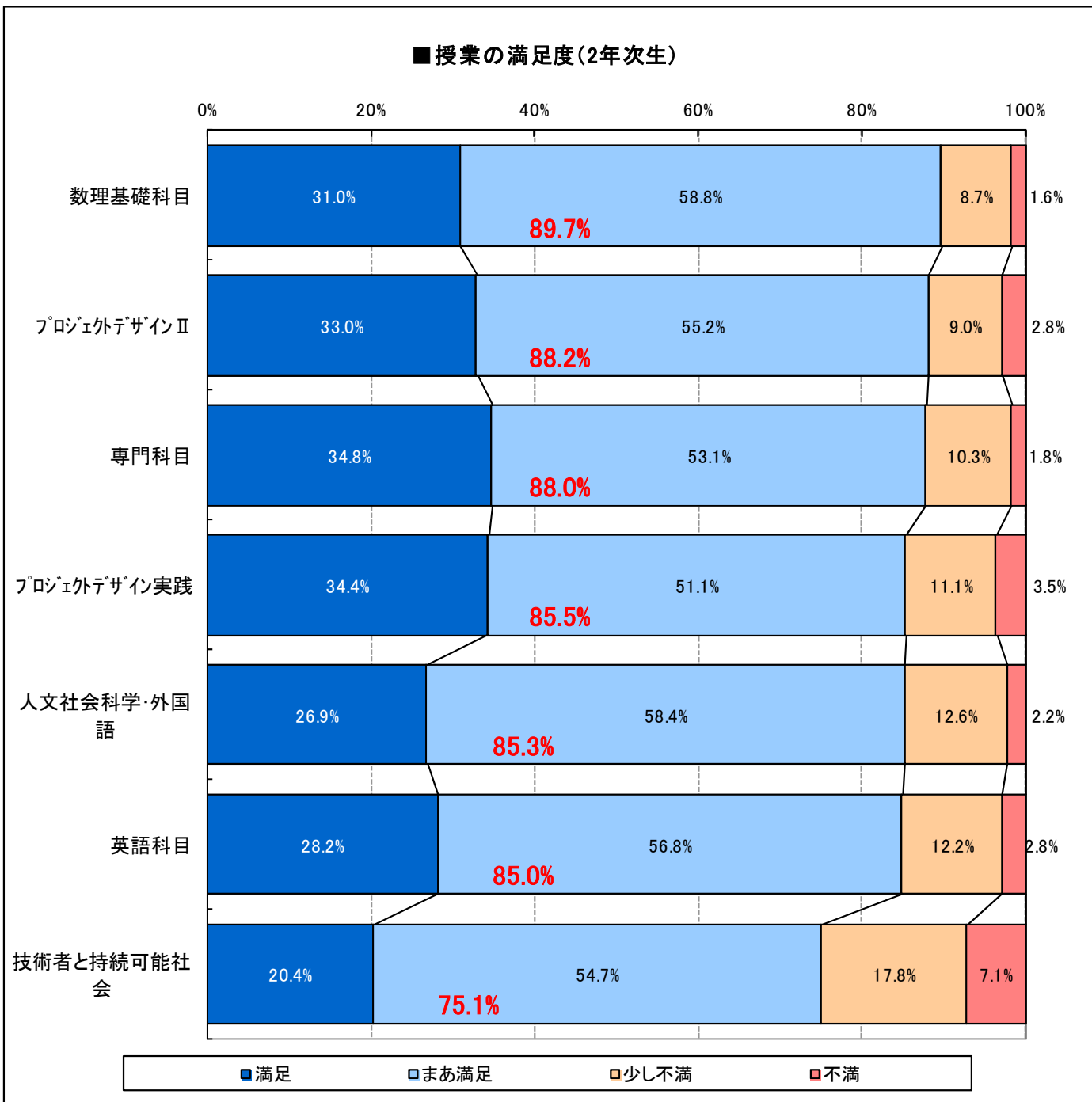
■授業の満足度 1年次生

- 授業の満足度は、前回まで「対面授業」と「オンライン授業」に分けて行っていたが、今回から「対面授業」だけになっている。
- 「1年次生」の授業で満足度が最も高かったのは「基礎実技科目」の96.9%であり、「数理基礎(AI基礎など)」が94.4%、「生涯スポーツ」が92.7%、「英語科目」が91.4%、「プロジェクトデザイン入門」が90.2%で続いていた。
- 一方、最も低かったのは「人間と自然」の81.0%であり、「数理基礎(線形代数など)」が82.5%で続いていた。
- 満足度の内訳を見ても、ほぼ上記と同じ傾向であったが、「英語科目」で「満足」が少ない点が特徴的であった。



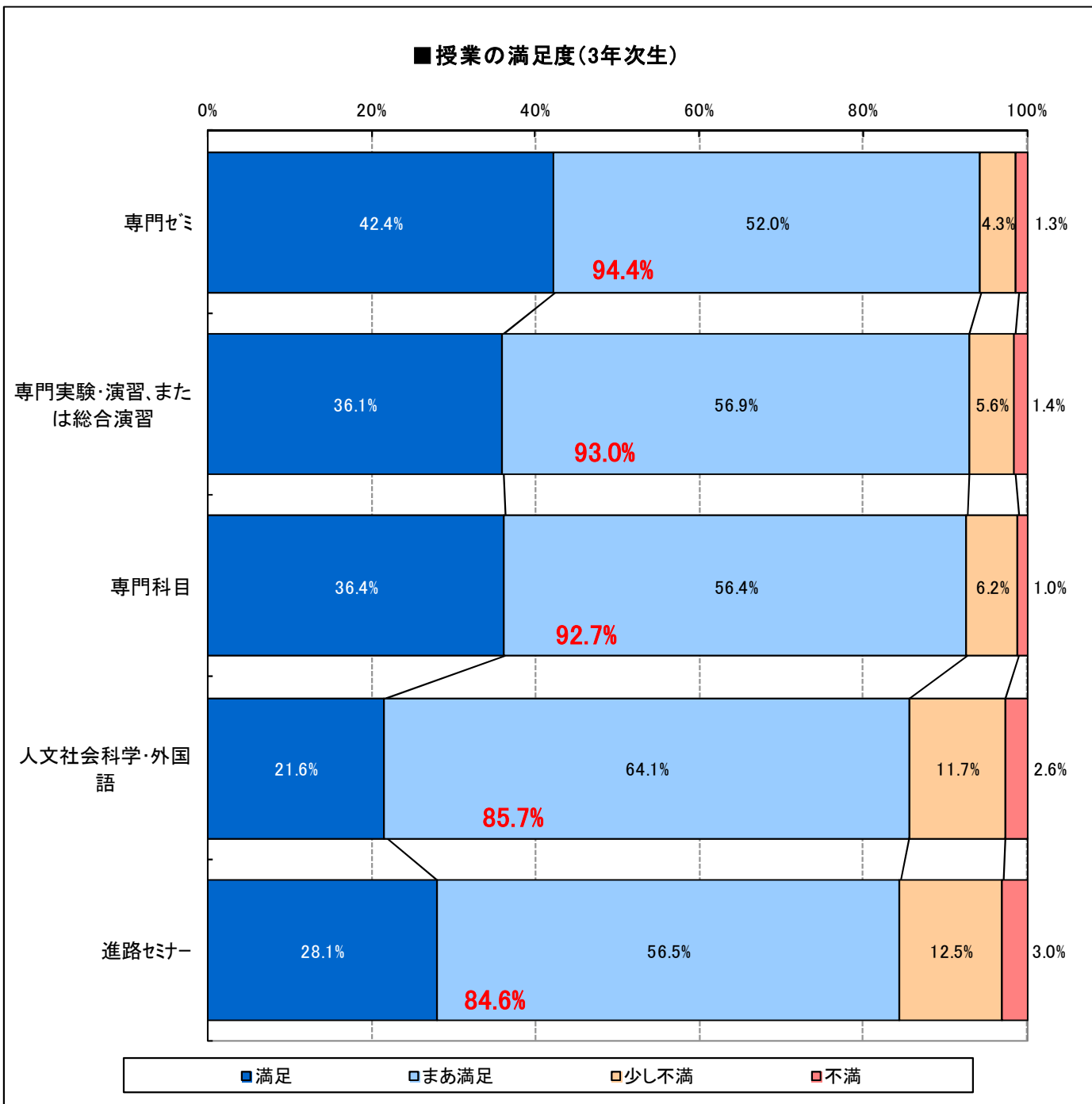
■授業の満足度 2年次生

- 「2年次生」の授業で満足度が最も高かったのは「数理基礎科目」の89.7%であり、「プロジェクトデザインⅡ」が88.2%、「専門科目」が88.0%、「プロジェクトデザイン実践」が85.5%で続いていた。この4科目の中の「専門科目」と「プロジェクトデザイン実践」では「満足」が約35%と多く、強く満足している意見が多かった。
- 一方、満足度が最も低かったのは「技術者と持続可能社会」の75.1%であり、他の科目と比べても低さが目立っており、「満足」も20.4%と少なかった。



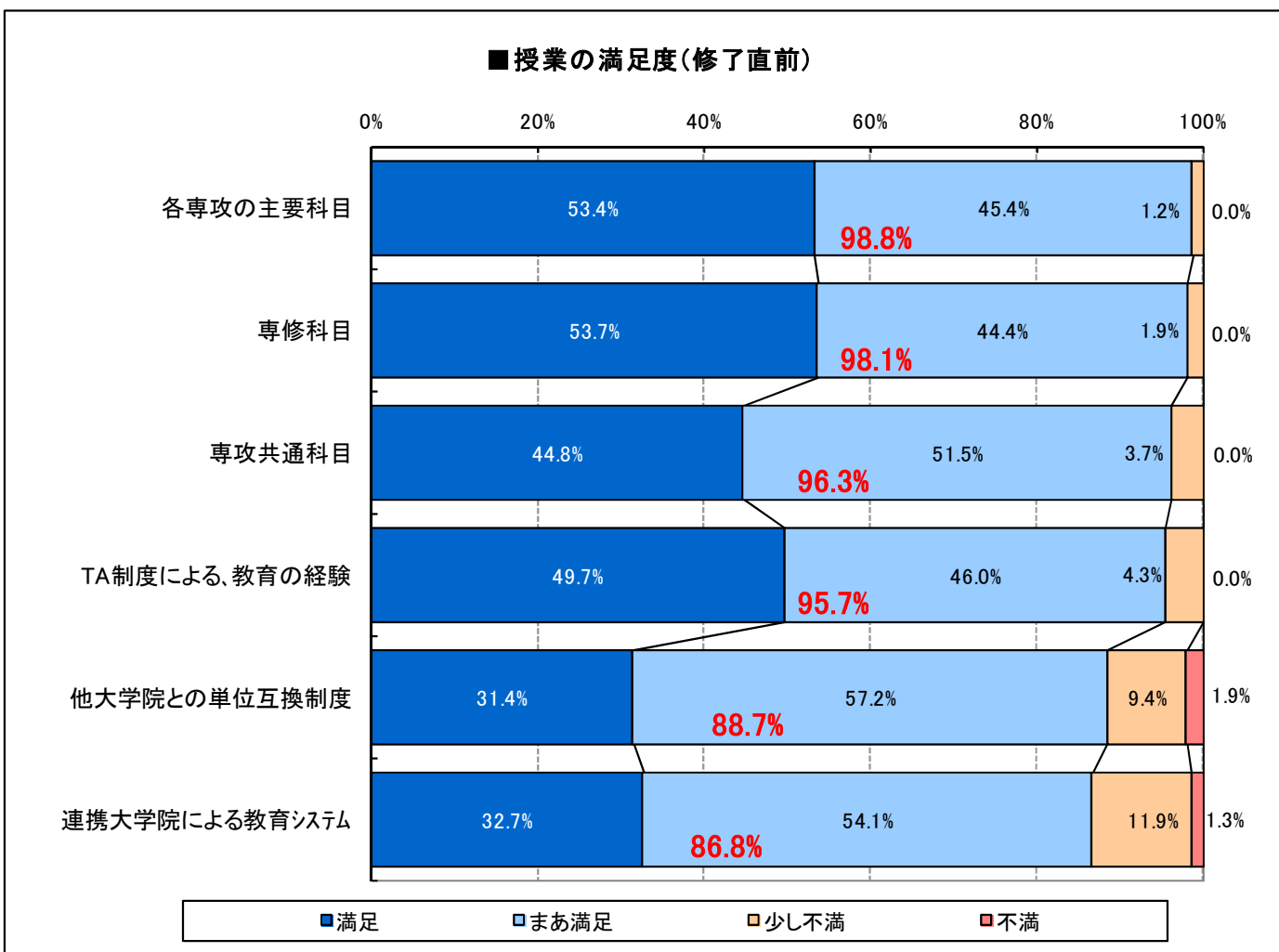
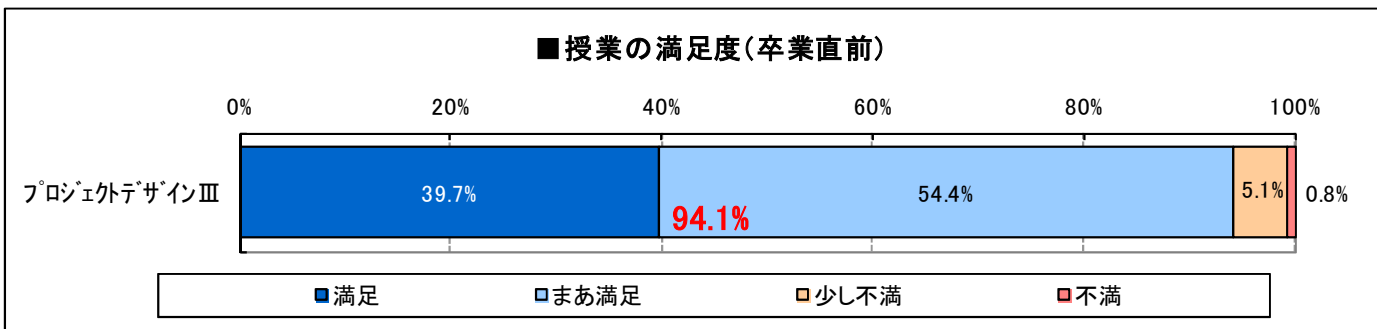
■授業の満足度 3年次生

- 「3年次生」の授業で満足度が最も高かったのは「専門ゼミ」の94.4%であり、「専門実験・演習、または総合演習」が93.0%、「専門科目」が92.7%で続いており、ここまでの3科目は「満足」が多い点が共通していた。
- 一方、最も低かったのは「進路セミナー」の84.6%であったが、「満足」を見ると「人文社会科学・外国語」の少なさが目立っていた。



■授業の満足度 卒業・修了直前

- 「卒業直前」の授業は「プロジェクトデザインⅢ」の1科目だけであるが、満足度は94.1%であり、「満足」が39.7%を占めていた。
- 「修了直前」の授業で満足度が最も高かったのは「各専攻の主要科目」の98.8%であった。次いで、「専修科目」が98.1%、「専攻共通科目」が96.3%、「TA制度による、教育の経験」が95.7%で続いていたが、ここまでの4科目は「満足」が5割に近く、強く満足している学生も多かった。
- 一方、満足度がやや低めであったのは「連携大学院による教育システム」の86.8%と「他大学院との単位互換制度」の88.7%であったが、これらも十分に高い満足度と言える。

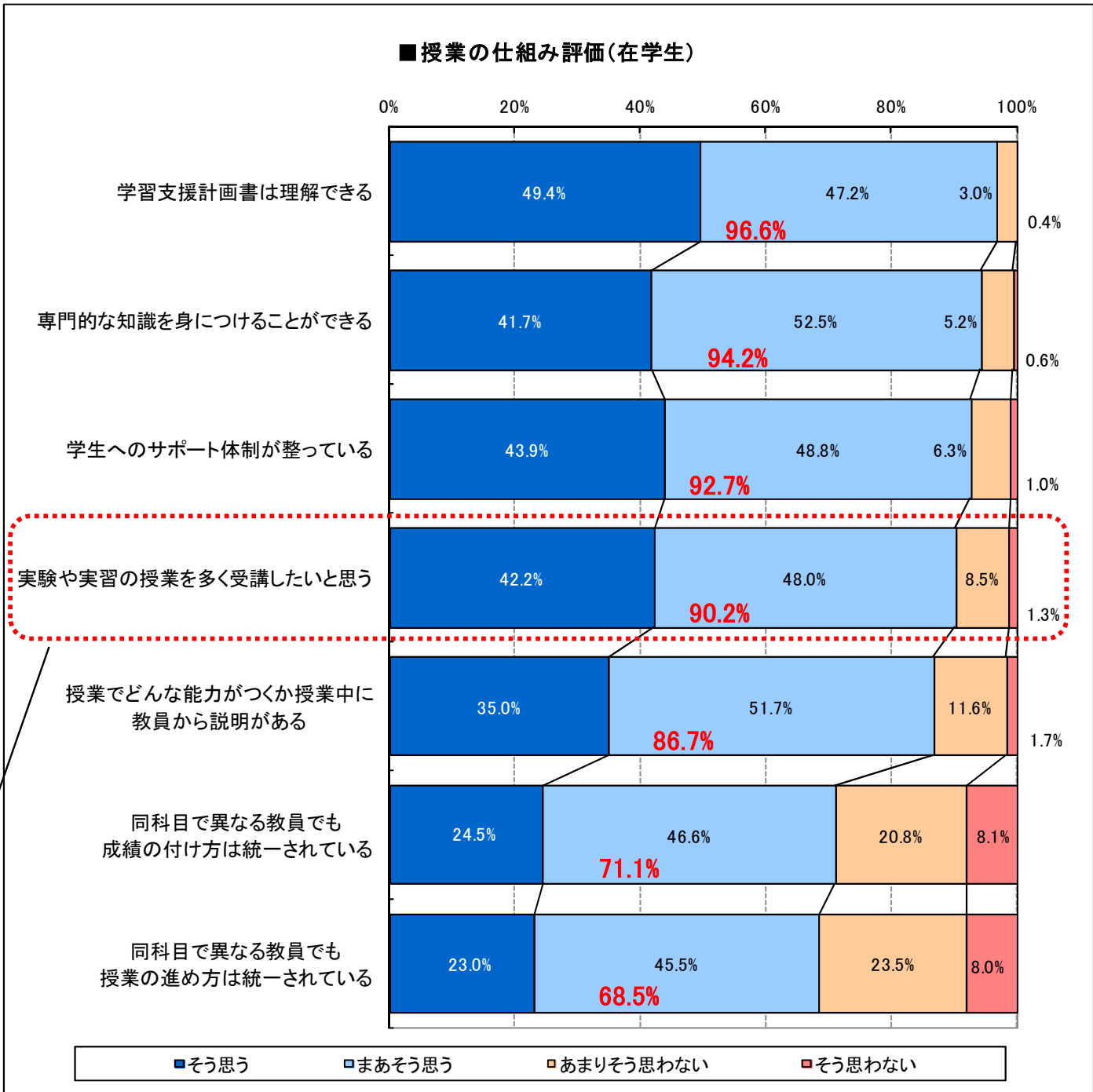


<3-2> 授業の仕組み評価

■ 授業の仕組み評価

- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く6つの質問と、要望を聞く1つの質問が混在している。
- 現状の評価を聞く質問で肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の96.6%であり、「そう思う」が約5割となっていた。次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が94.2%、「学生へのサポート体制が整っている」が92.7%で続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の68.5%で、「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」が71.1%で続いており、「同科目で異なる教員の対応」に対する不満が感じられた。
- 要望を聞く質問は「実験や実習の授業を多く受講したいと思うか？」であるが、90.2%が肯定的な回答となっており、強い要望が感じられた。

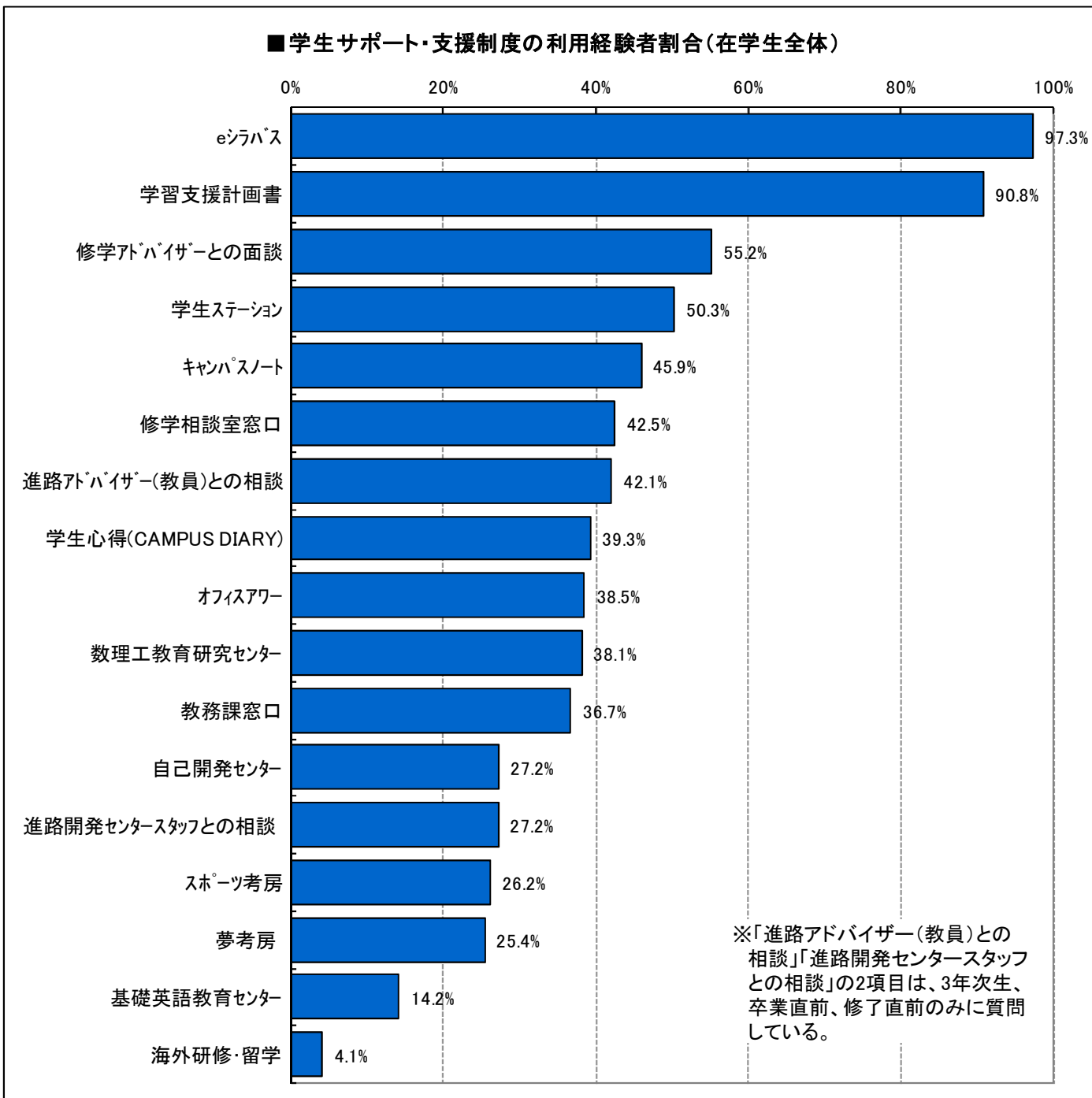
要望を聞く質問



<4-1> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学生サポート・支援制度で利用経験者の割合が最も高かったのは、今回から追加した「eシラバス」の97.3%であり、「学習支援計画書」の90.8%とともに高さが目立っていた。
- 上記に次いで、「進学アドバイザーとの面談」が55.2%、「学生ステーション」が50.3%、「キャンパスノート」が45.9%、「進学相談窓口」が42.5%で続いていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の4.1%であり、他と比べて低さが目立っていた。

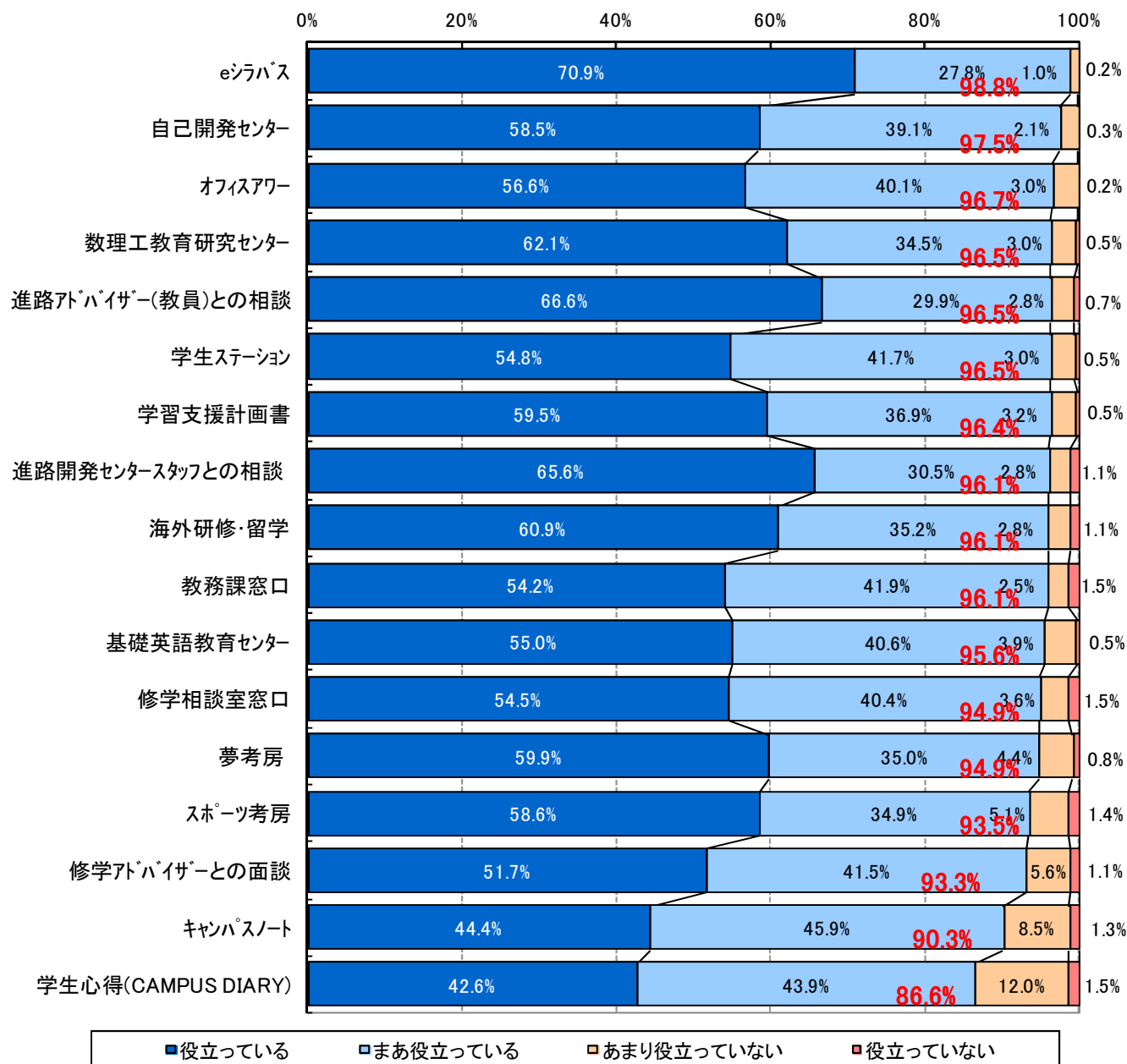


<4-2> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

- 「学生サポート・支援制度」を「利用している」と答えた学生に、各々のサポート・支援制度の評価を聞いたところ、すべての項目で肯定的な意見が85%以上となり、非常に高い評価となっていた。
- 最も評価が高かったのは「eシラバス」の98.8%であった。「eシラバス」は利用率も最も高く、しっかりと活用されている様子が伺えた。
- 上記に次いで、「自己開発センター」が97.5%、「オフィスアワー」が96.7%で続いていた。
- 最も評価が低かったのは「学生心得(CAMPUS DIARY)」の86.6%であったが、これも、評価としては決して低いものではなかった。

■ 学生サポート・支援制度の評価(在学生)

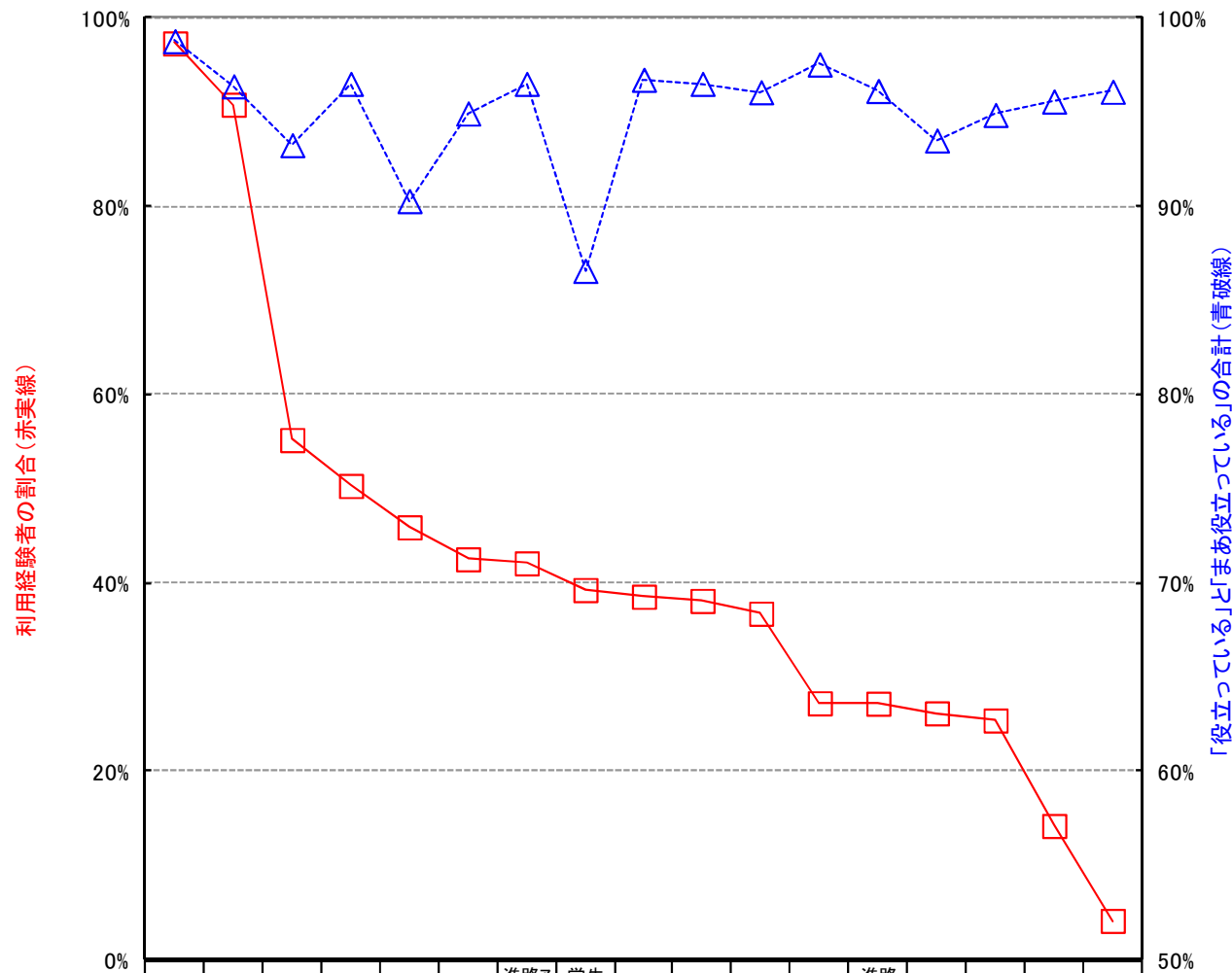


<4-3> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を1つのグラフにまとめて、関係性を見ている。赤い実線は利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合を見ると、「eシラバス」と「学習支援計画書」の高さが目立っており、この2項目は満足度も高かった。
- 一方、「海外研修・留学」「基礎英語教育センター」は利用率の低さが目立っていたが、利用者からの評価は高かった。そして、「学生心得(CAMPUS DIARY)」は利用経験者は少なくはないが、評価では低さが目立っていた。

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価(在学生)

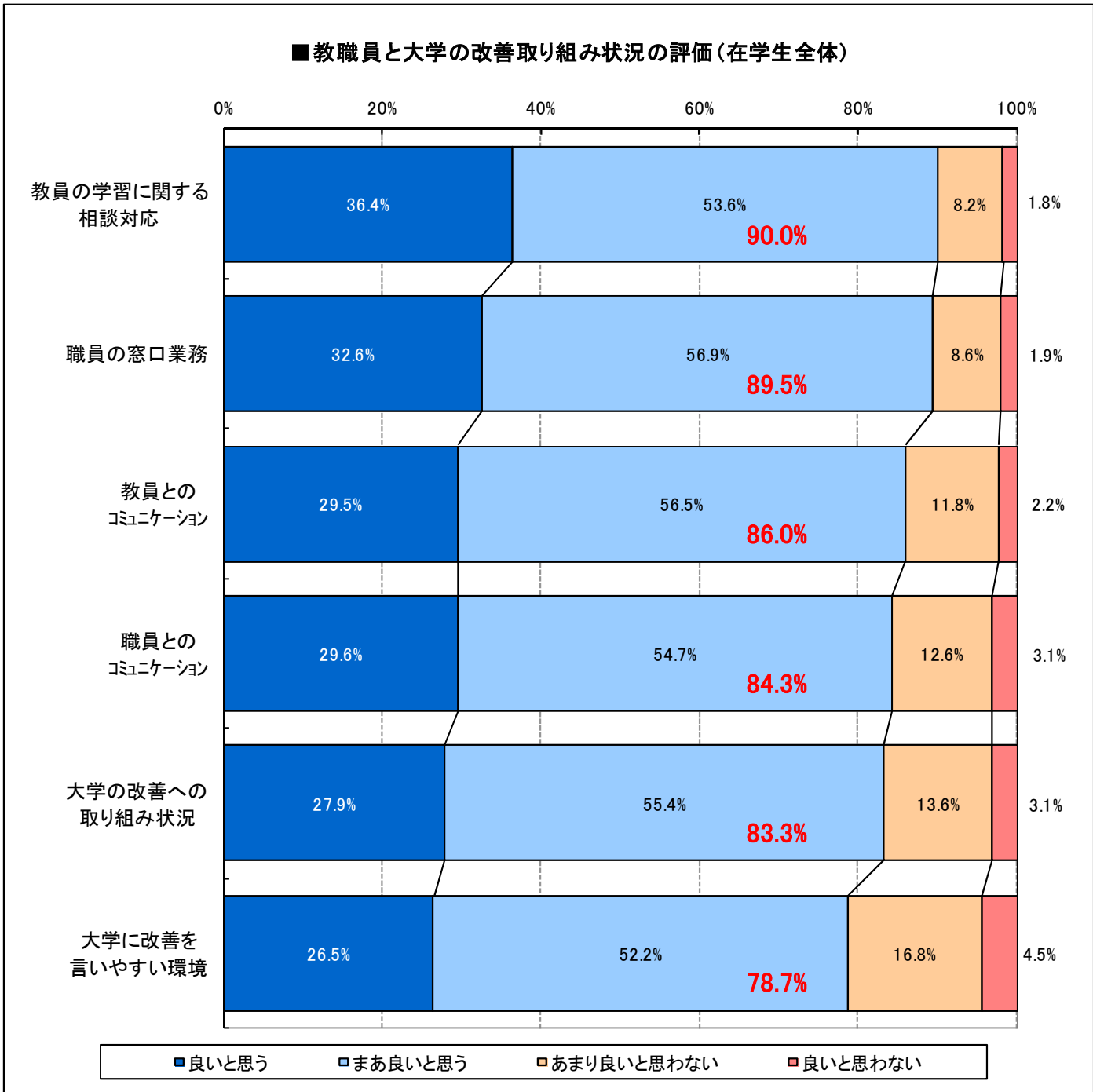


	eシラバス	学習支援計画書	修学アドバイザーとの面談	学生ステーション	キャンパスノート	修学相談室窓口	進路アドバイザー(教員)との相談	学生心得(CAMPUS DIARY)	オフィスアワー	数理工教育研究センター	教務課窓口	自己開発センター	進路開発センタースタッフとの相談	スポーツ考房	夢考房	基礎英語教育センター	海外研修・留学
利用経験者の割合 (赤実線)	97.3%	90.8%	55.2%	50.3%	45.9%	42.5%	42.1%	39.3%	38.5%	38.1%	36.7%	27.2%	27.2%	26.2%	25.4%	14.2%	4.1%
評価 (青破線)	98.8%	96.4%	93.3%	96.5%	90.3%	94.9%	96.5%	86.6%	96.7%	96.5%	96.1%	97.5%	96.1%	93.5%	94.9%	95.6%	96.1%

<4-4>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

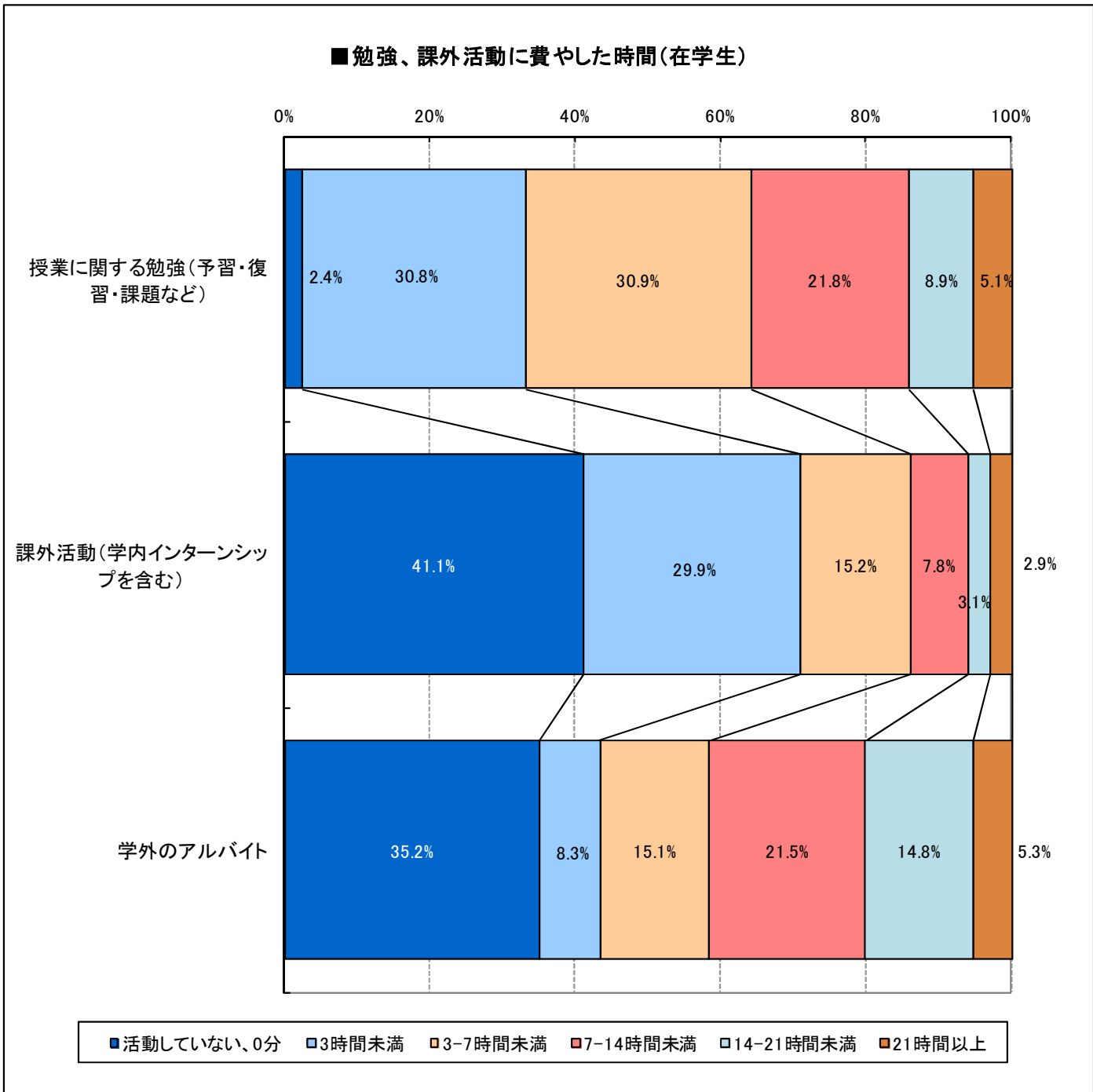
- 教職員と大学の改善取り組み状況で最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」の90.0%であった。次いで、「職員の窓口業務」が89.5%、「教員とのコミュニケーション」が86.0%が続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」の78.7%であったが、評価としては低いものではなかった。



<4-5> 勉強、課外活動に費やした時間

■ 勉強、課外活動に費やした時間

- 勉強、課外活動に費やした時間は、「普段の1週間の生活の中で費やした時間(1週間の合計)はどの程度でしょうか?」という質問文で、3つの分野に関して聞いている。
- 「授業に関する勉強(予習・復習・課題など)」では、「活動していない、0分」が2.4%、「3時間未満」が30.8%、「3-7時間未満」が30.9%、「7-14時間未満」が21.8%、「14-21時間未満」が8.9%、「21時間以上」が5.1%であり、「1日に1時間以上(後半3つの選択肢の合計)」は35.8%であった。
- 「課外活動(学内インターンシップを含む)」では、「活動していない、0分」が41.1%と多い点が特徴的であり、「3時間未満」が29.9%、「3-7時間未満」が15.2%と、費やされる時間も短く、「1日に1時間以上」の合計は13.8%であった。
- 「学外のアルバイト」でも「活動していない、0分」が35.2%と多かった。一方、「1日に1時間以上」の合計は41.6%と多く、アルバイトをしている学生は多くの時間を充てているようであった。

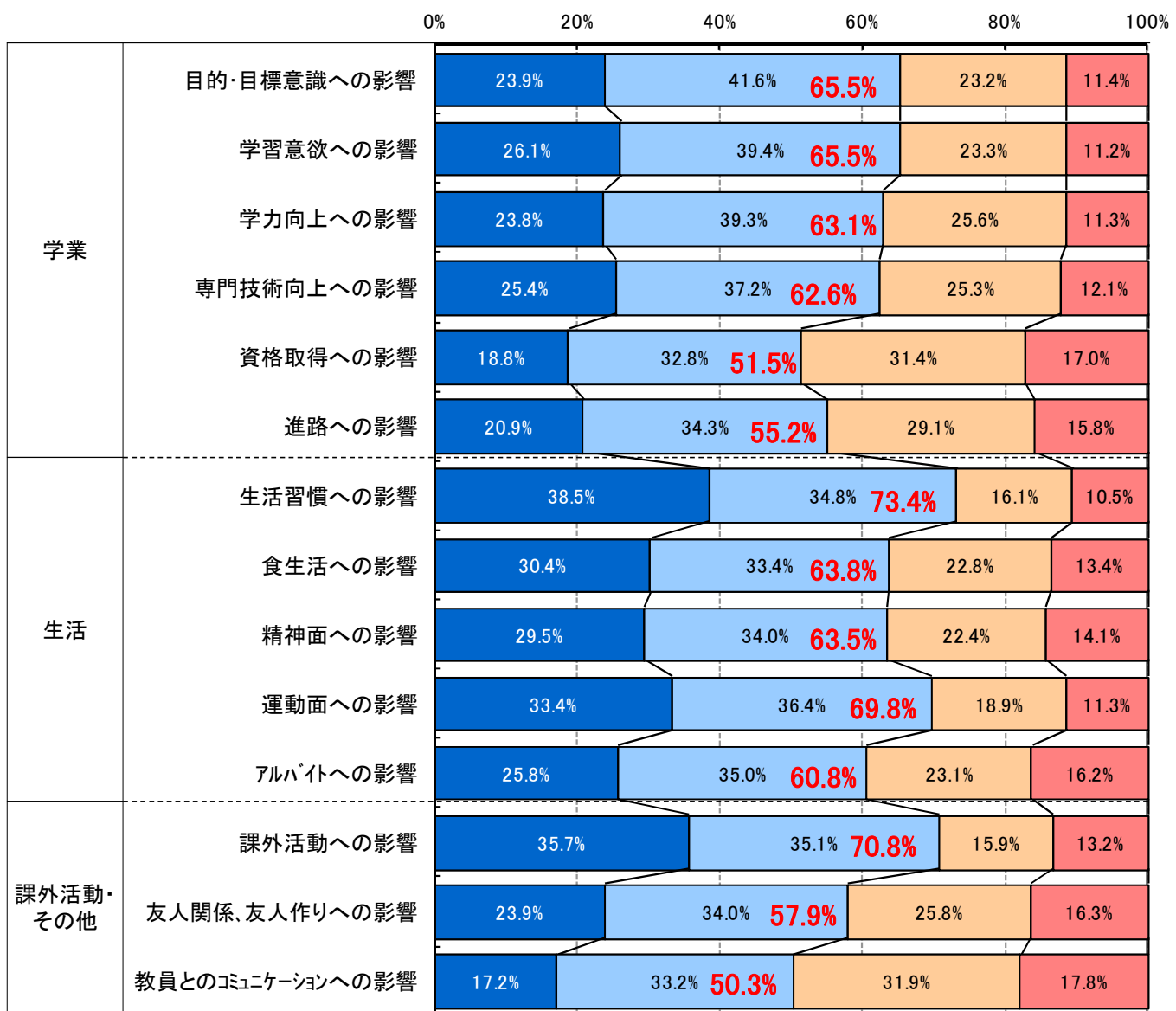


<4-6> 学生生活へのコロナ禍の影響

■ 学生生活へのコロナ禍の影響

- 学生生活へのコロナ禍の影響は、「学業」「生活」「課外活動・その他」の各分野に関して、「影響があった」～「影響はなかった」の4択で聞いている。
- 「学業」の中で「影響があった」と「やや影響があった」の合計が最も多かったのは「目的・目標意識への影響」と「学習意欲への影響」の65.5%で、「学力向上への影響」が63.1%、「専門技術向上への影響」が62.6%で続いており、内訳を見てもこの4項目はよく似た傾向であった。一方、最も影響が少なかったのは「資格取得への影響」の51.5%であった。
- 「生活」の中で最も影響が大きかったのは「生活習慣への影響」の73.4%であり、「運動面への影響」の69.8%と共に影響の大きさが目立っていた。そして、最も少なかったのは「アルバイトへの影響」の60.8%であった。
- 「課外活動・その他」の中では「課外活動への影響」が70.8%で最も多く、「教員とのコミュニケーションへの影響」が50.3%で最も少なかった。
- 全体で見ると「生活習慣」「課外活動」「運動面」に対する影響が大きく、「教員とのコミュニケーション」「資格取得」への影響は小さいようであった。

■ 学生生活へのコロナ禍の影響

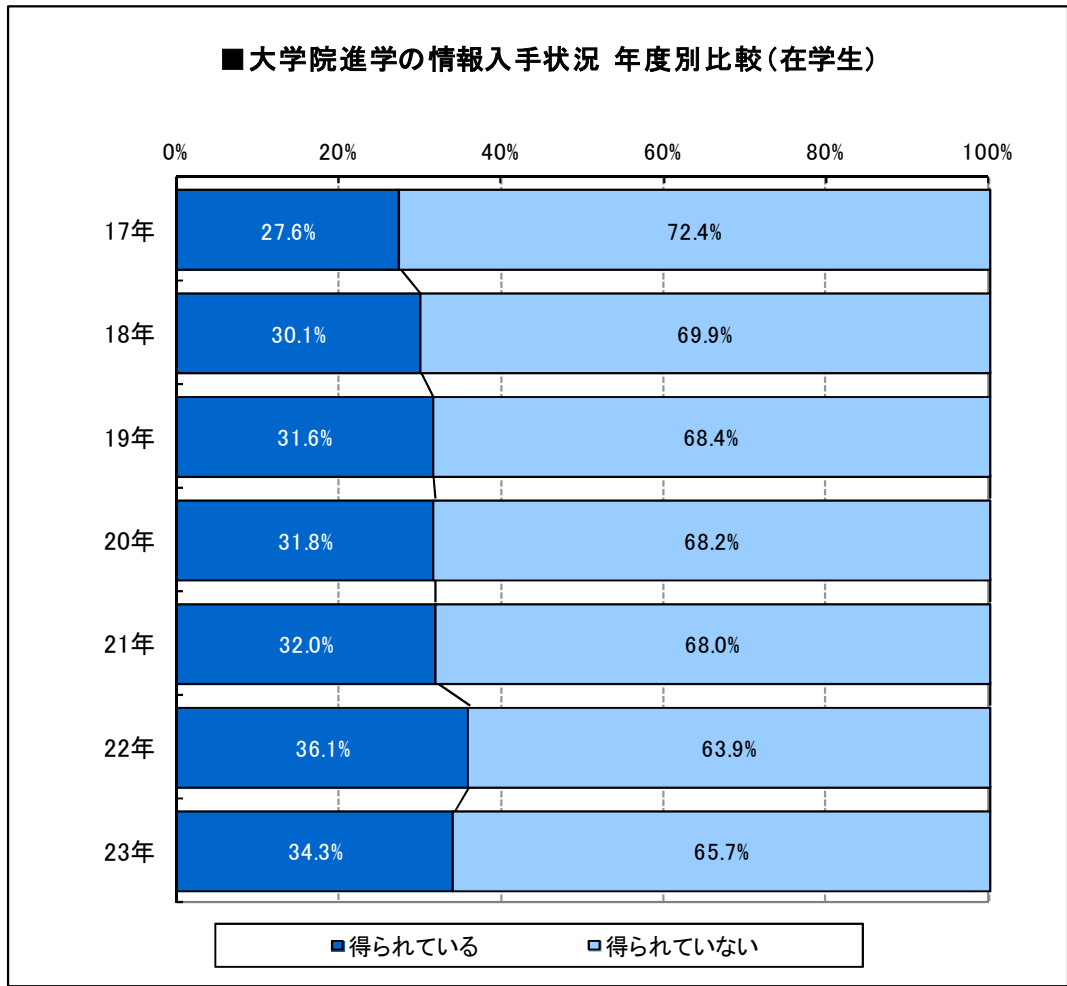
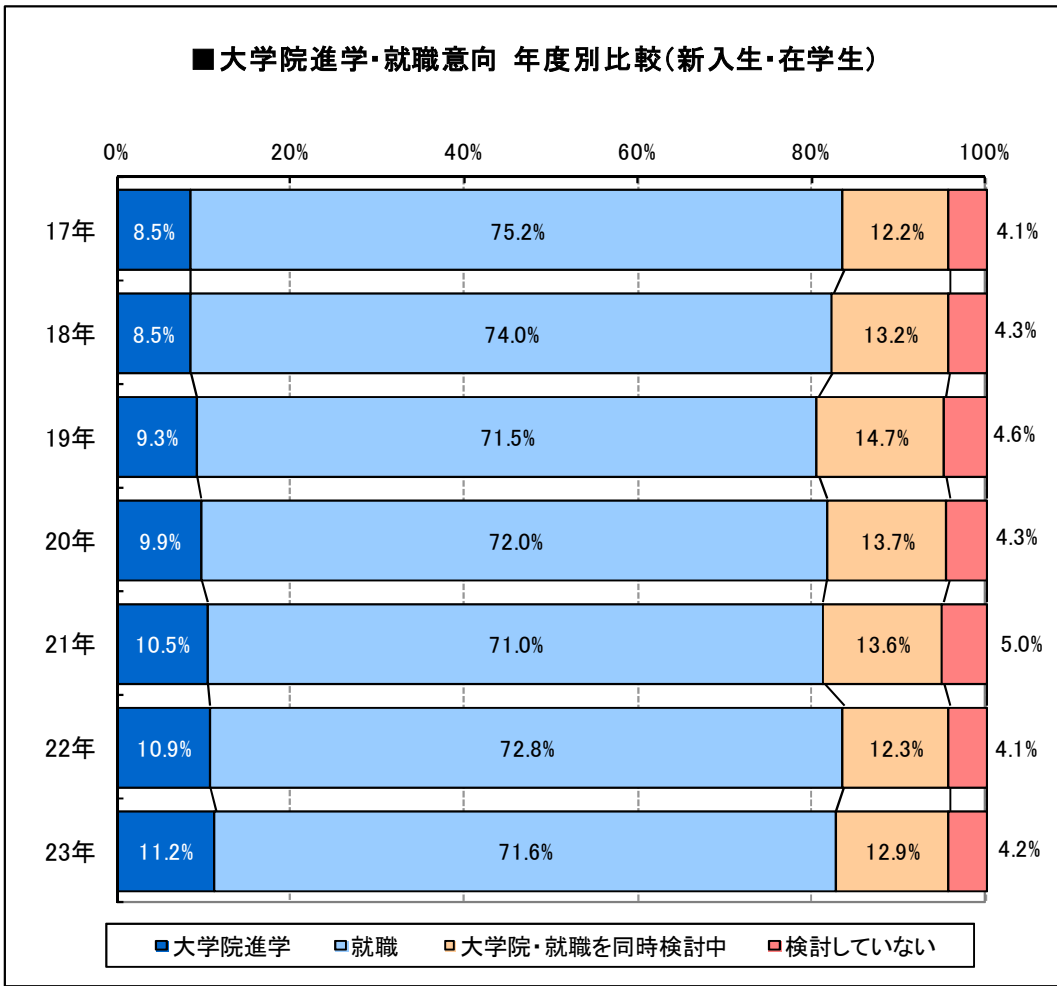


■ 影響があった □ やや影響があった □ あまり影響はなかった □ 影響はなかった

<5-1> 大学院への進学・就職意向、情報の入手状況

■ 大学院進学・就職意向、情報の入手状況

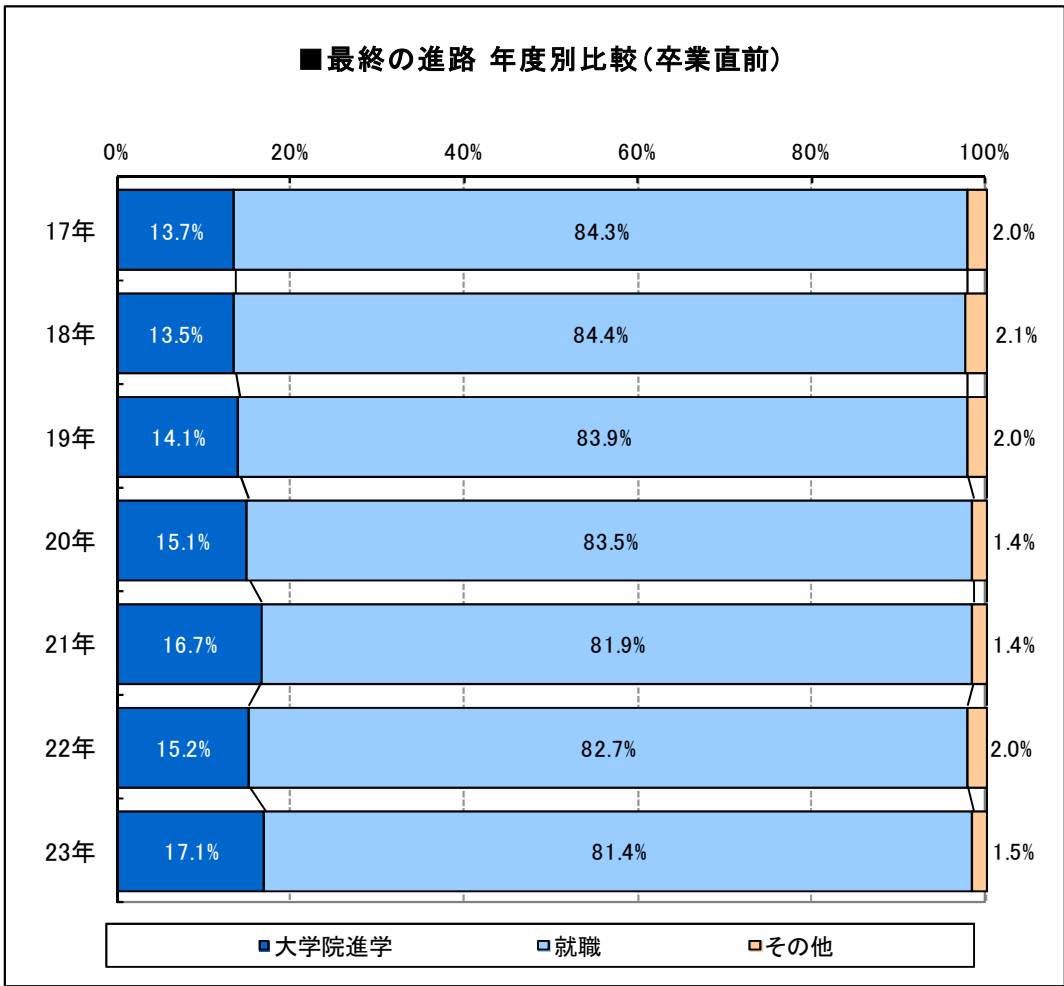
- 「大学院進学・就職意向」に関しては、「就職」が71.6%、「大学院・就職を同時検討中」が12.9%、「大学院進学」が11.2%、「検討していない」が4.2%であり、「大学院進学」の増加傾向が続いていた。
- 「大学院進学の情報は何処から得られていますか？」に対しては、「得られている」が34.3%、「得られていない」が65.7%であり、「得られている」は前回から1.8ポイント減少しており、増加傾向が終わっていた。



<5-2> 最終の進路

■最終の進路

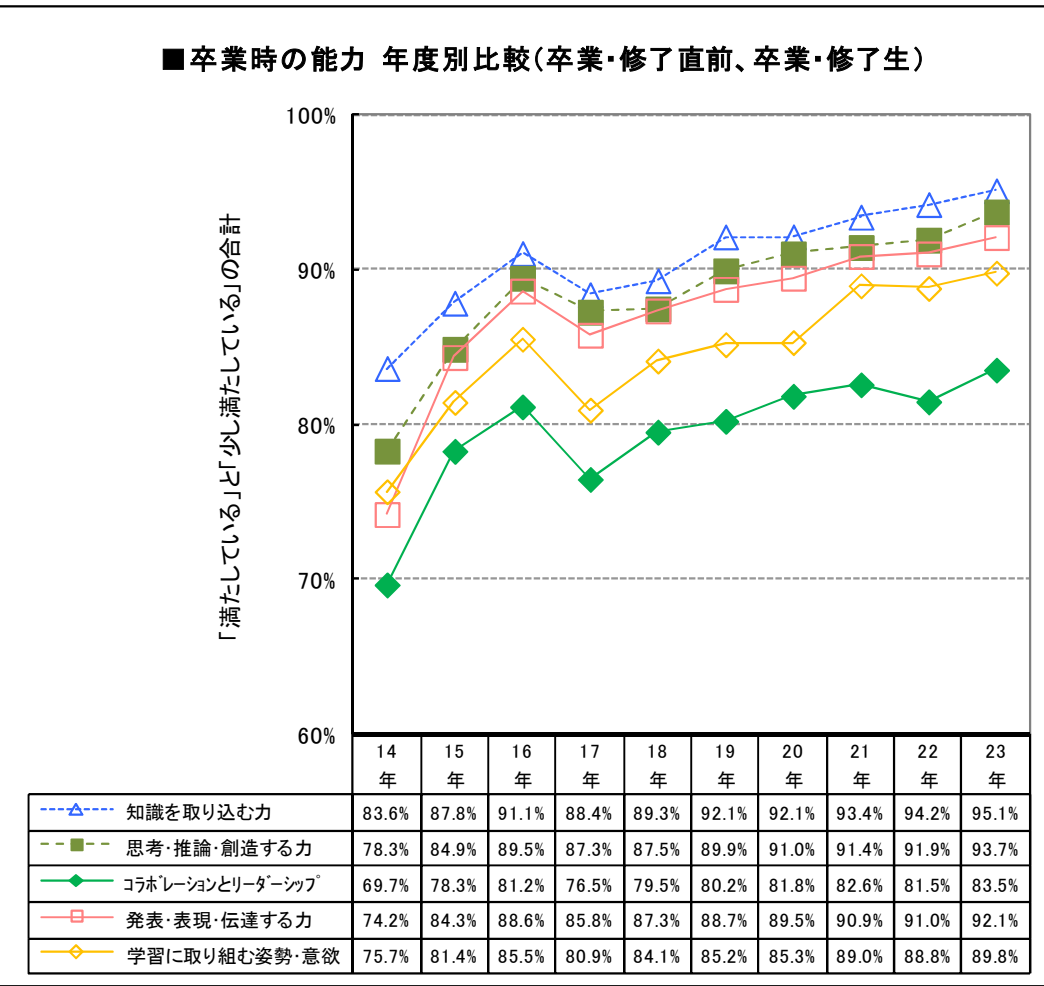
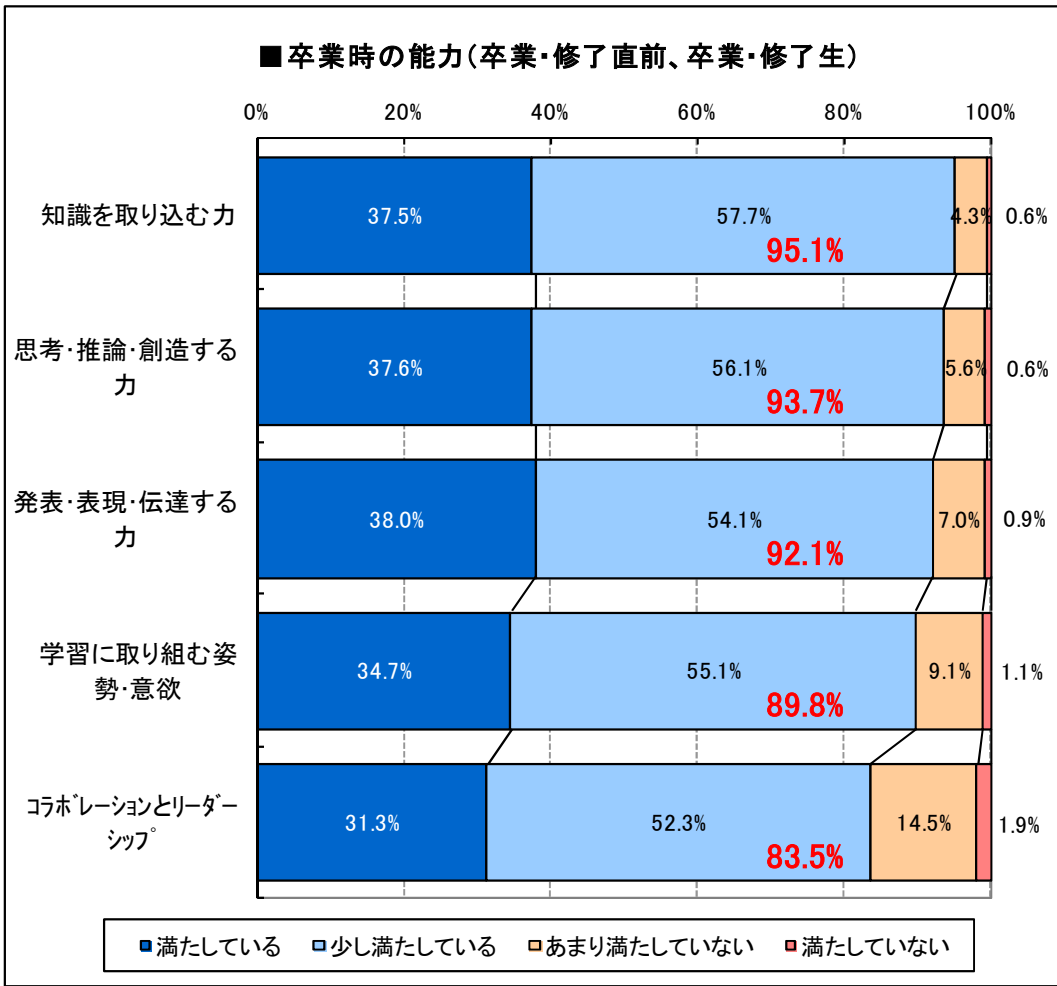
- 「卒業直前」には「最終の進路」を聞いているが、最も多かったのは「就職」の81.4%であり、「大学院進学」が17.1%、「その他」が1.5%となっていた。
- 「大学院進学」は18年から21年まで増加傾向が続き、22年にはわずかに減少していたが、今回は1.9ポイント増加して過去最高となっていた。



<5-3>卒業時の能力

■卒業時の能力 年度別比較

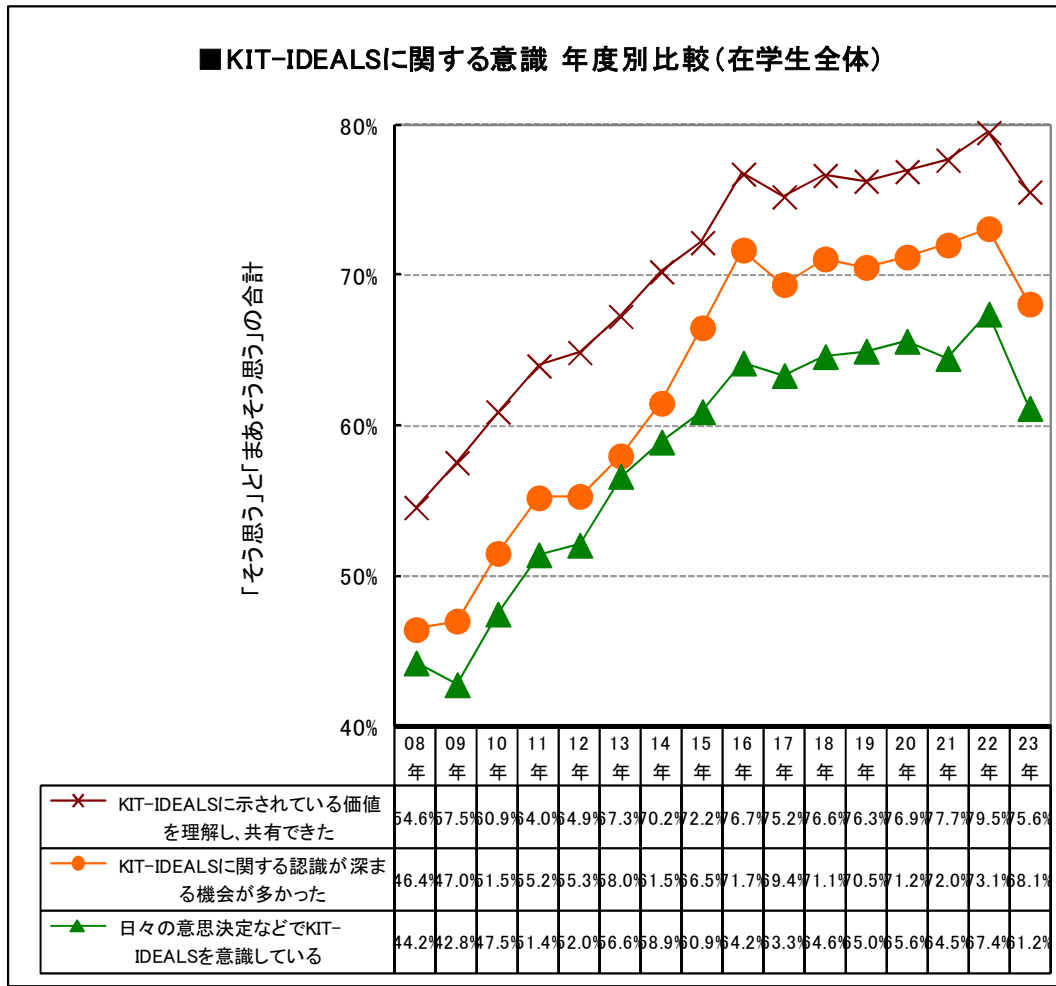
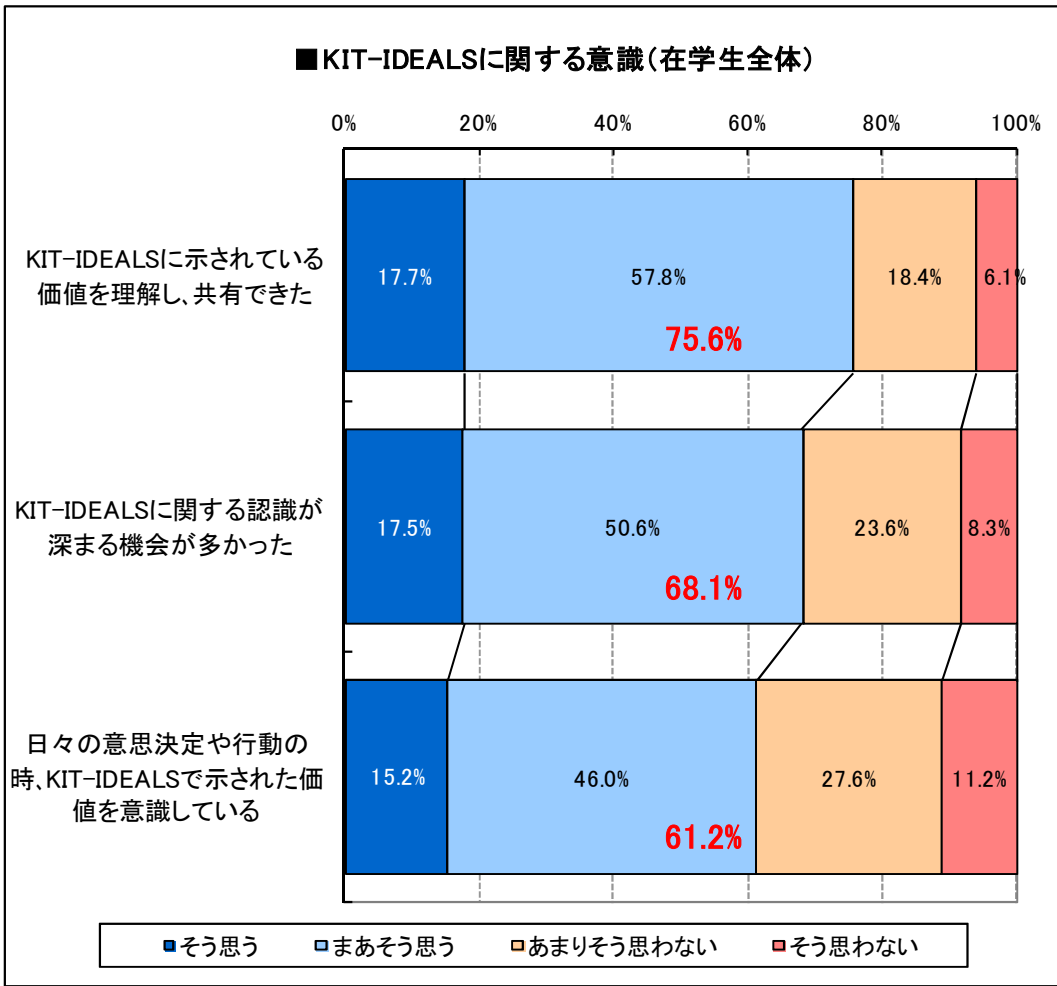
- 「卒業時の能力」は「卒業・修了直前」「卒業・修了生」に自己評価を聞くものであるが、肯定的な意見が最も多かったのは、「知識を取り込む力」の95.1%であり、「思考・推論・創造する力」が93.7%、「発表・表現・伝達する力」が92.1%で続いていた。一方、最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」の83.5%であった。
- 年度別に比較すると、前回は低下するものもあったが、今回はすべてが増加しており、「知識を取り込む力」「思考・推論・創造する力」「発表・表現・伝達する力」は17年からの継続的な増加が続いていた。



<6-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識、年度別比較

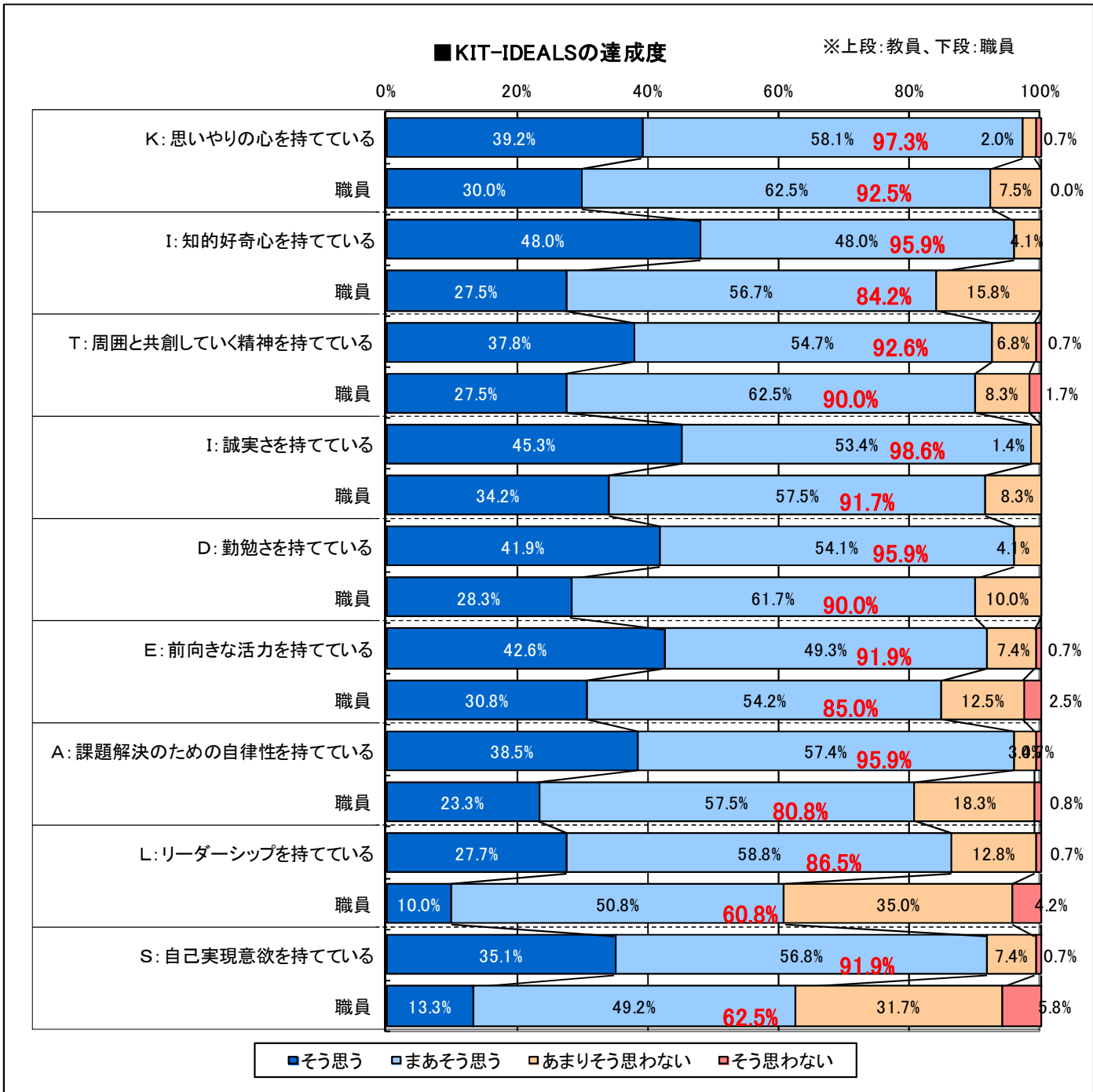
- KIT-IDEALSに関する質問で肯定的な意見が最も多かったのは、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」の75.6%であり、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」が68.1%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」が61.2%となっていた。
- 年度別には、前回までは例外はあるもの肯定的な意見が増加する傾向が続いて3項目ともに過去最高となっていたが、今回はいずれも前回を大きく下回っていた。



<6-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

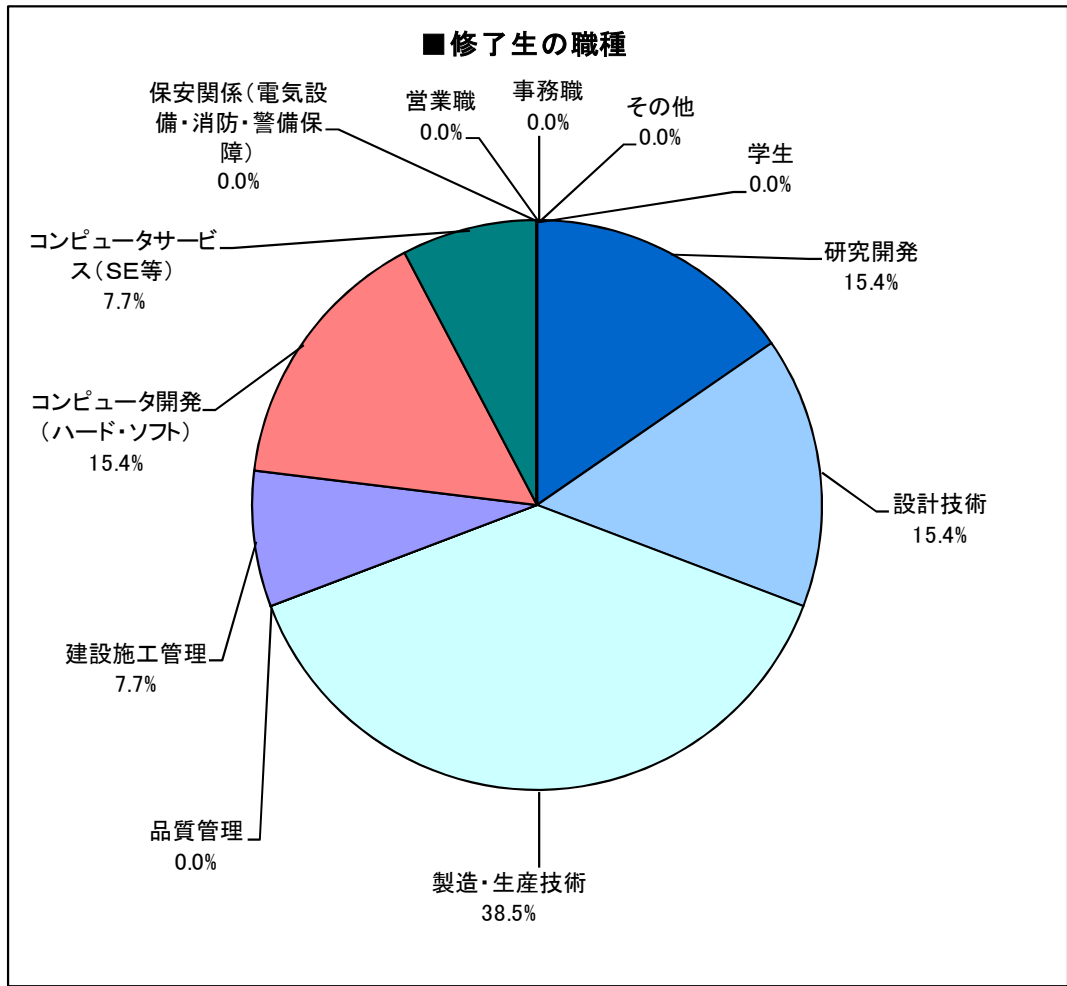
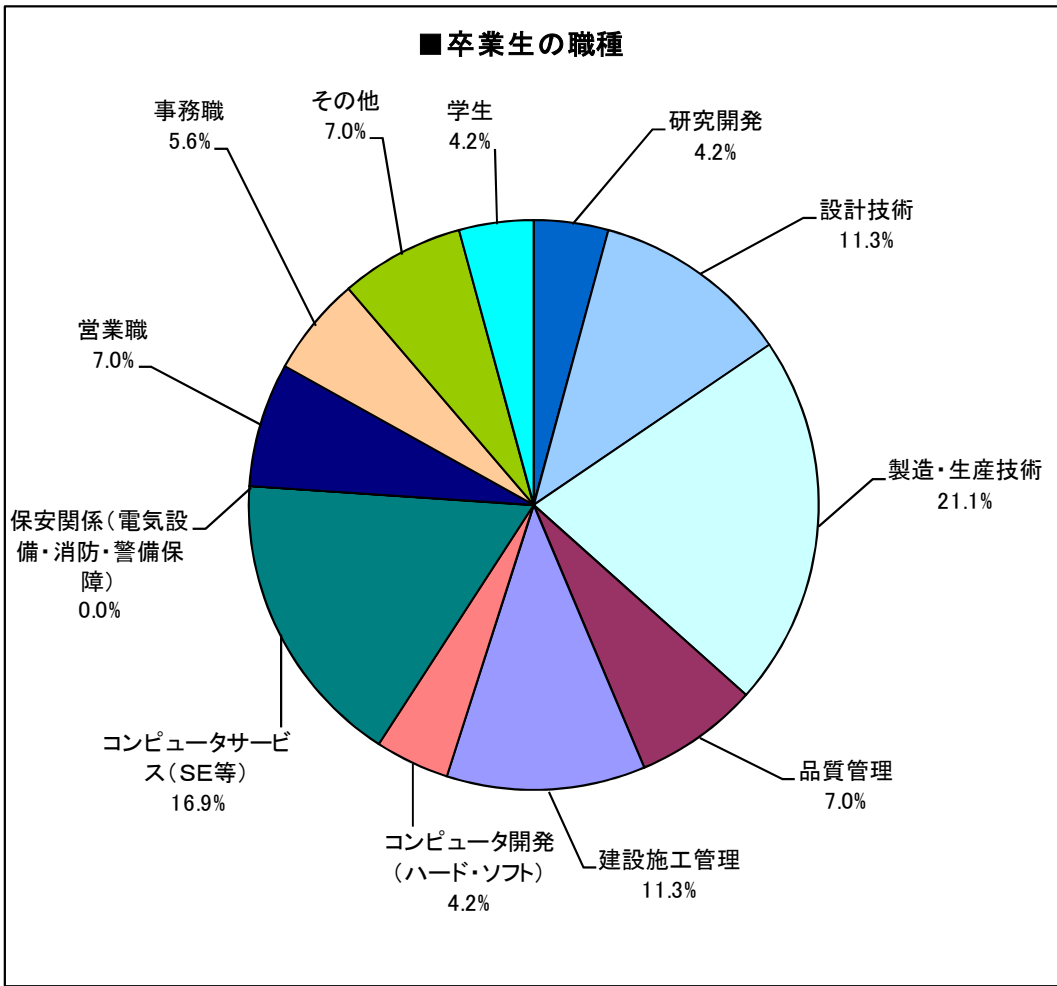
- 教職員にはKIT-IDEALSに関して9項目の質問をしているが、達成度はすべての項目で「教員」の方が高かった。
- 「教員」で達成度が最も高かったのは、「I:誠実さを持っている」の98.6%であり、「K:思いやりの心を持っている」の97.3%、「I:知的好奇心を持っている」「D:勤勉さを持っている」「A:課題解決のための自律性を持っている」の3項目が95.9%で続いていた。一方、最も低かったのは「L:リーダーシップを持っている」の86.5%であり、唯一、9割を下回っていた。
- 「職員」で達成度が最も高かったのは、「K:思いやりの心を持っている」の92.5%であり、「I:誠実さを持っている」が91.7%、「T:周囲と共創していく精神を持っている」と「D:勤勉さを持っている」が90.0%で続いていた。一方、「L:リーダーシップを持っている」の60.8%と「S:自己実現意欲を持っている」の62.5%は目立って低く、「教員」との差も大きかった。



<7-1>卒業・修了生の基本属性

■現在の職種

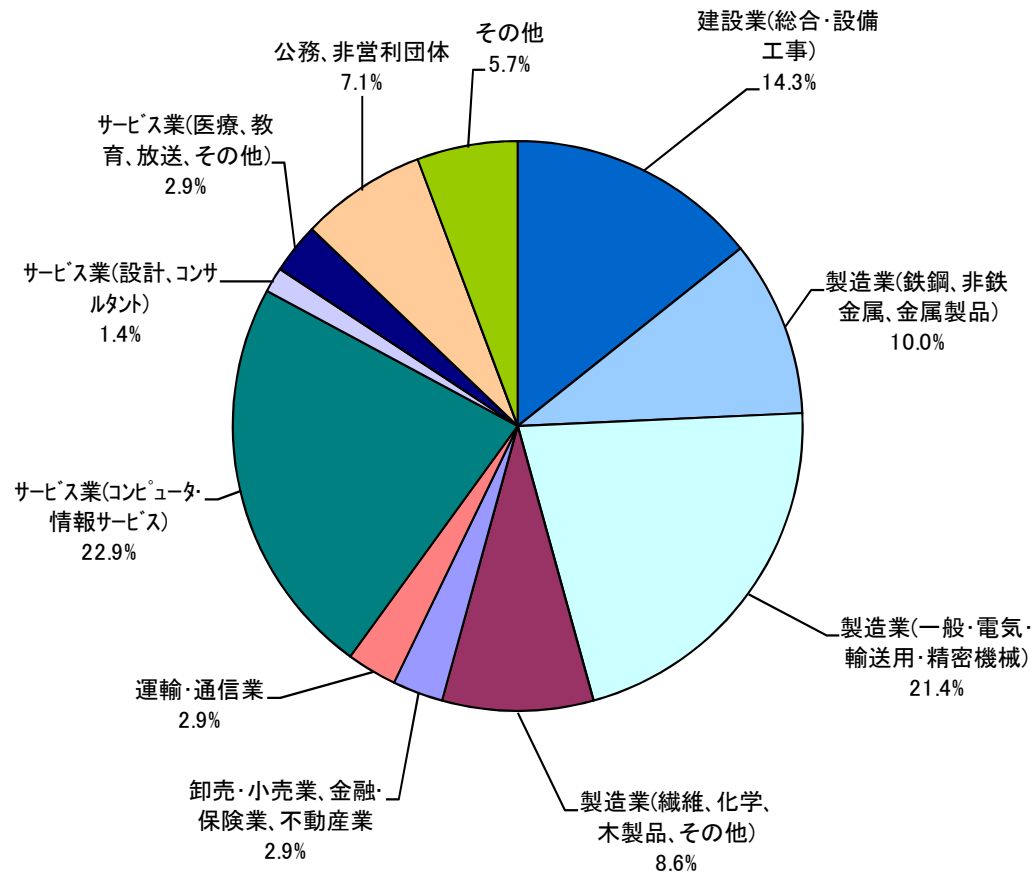
- 卒業生の職種では「製造・生産技術」が21.1%で最も多く、次いで、「コンピュータサービス(SE等)」が16.9%、「設計技術」と「建設施工管理」が11.3%で続いていた。
- 修了生の職種では「製造・生産技術」が38.5%で最も多く、「研究開発」「設計技術」「コンピュータ開発(ハード・ソフト)」がいずれも15.4%で続いていた。



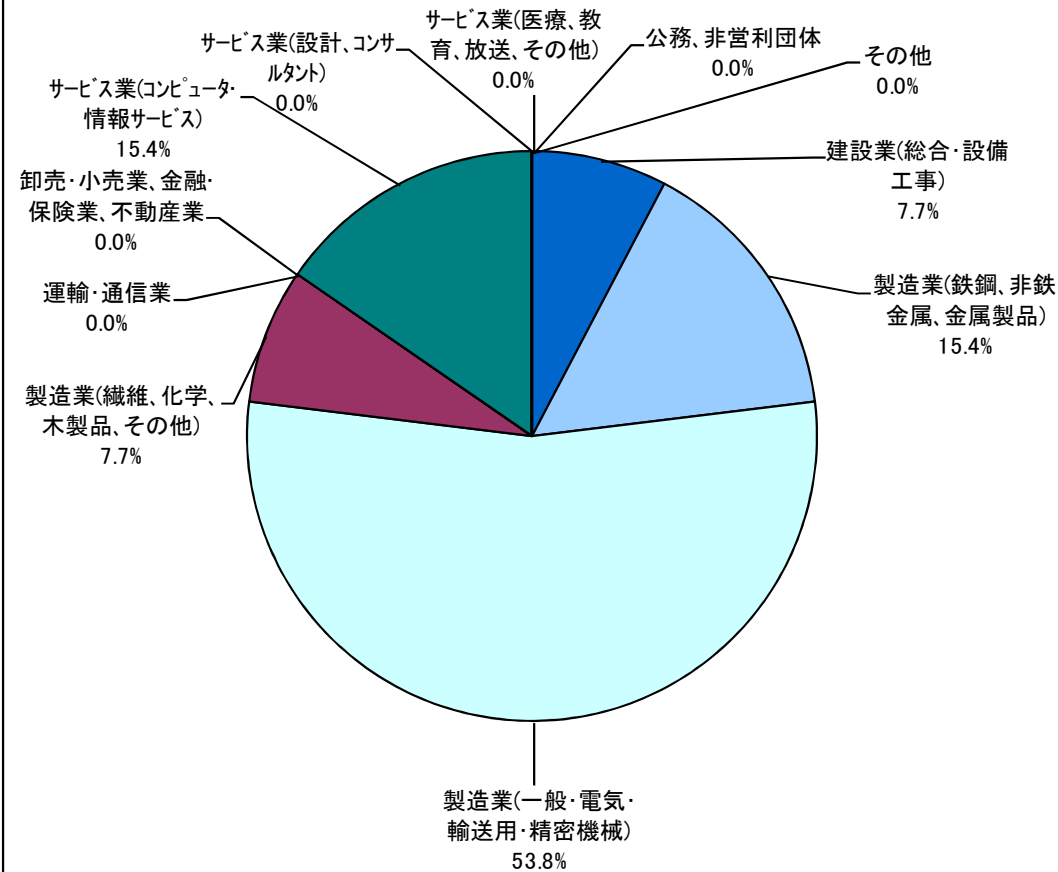
■現在の会社の業種

- 卒業生の会社の業種では「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が22.9%で最も多く、「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が21.4%、「建設業(総合・設備工事)」が14.3%、「製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)」が10.0%で続いていた。
- 修了生では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が53.8%で半数を占めており、「製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)」と「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が15.4%で続いていた。

■卒業生の会社の業種



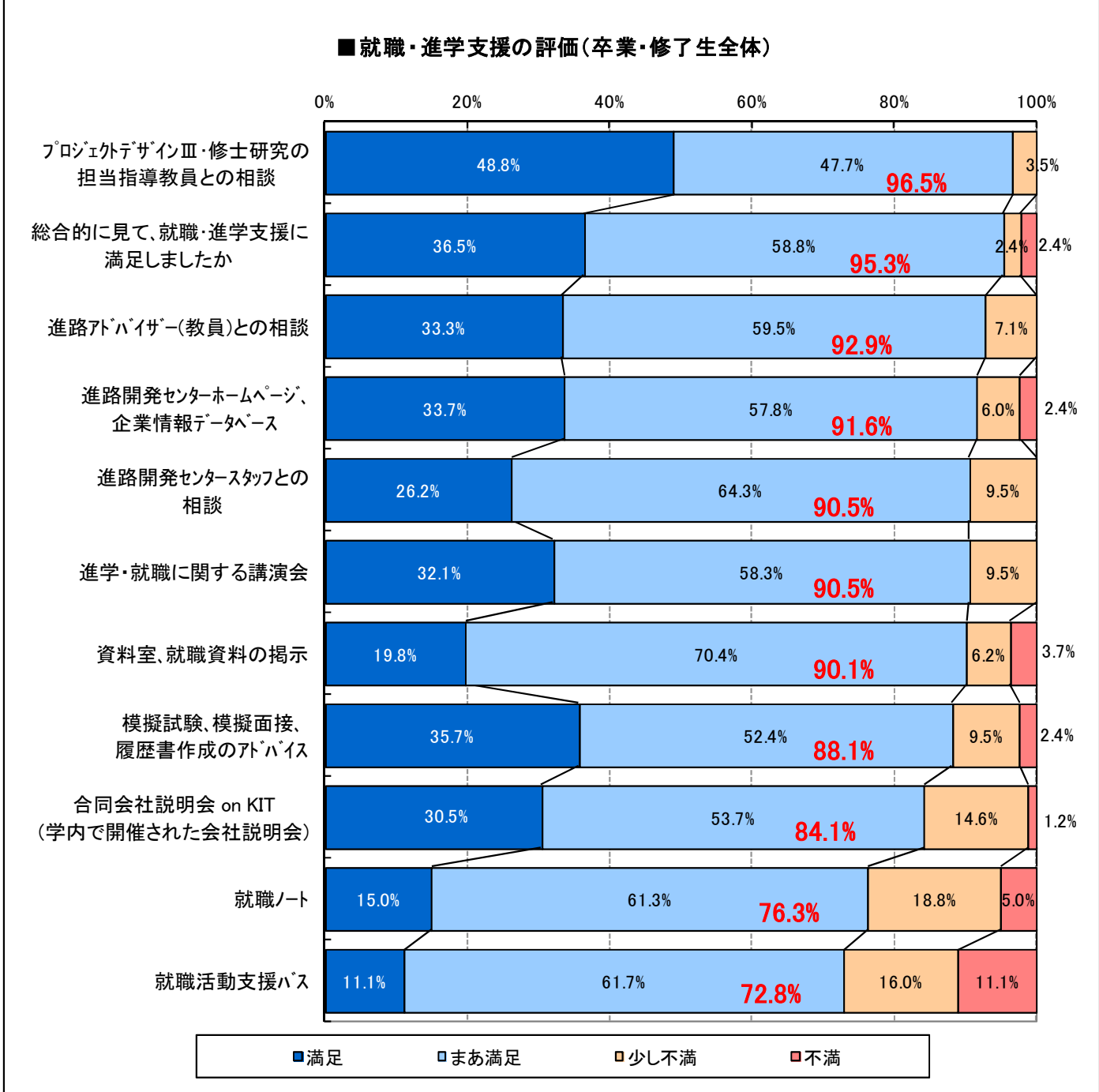
■修了生の会社の業種



<7-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

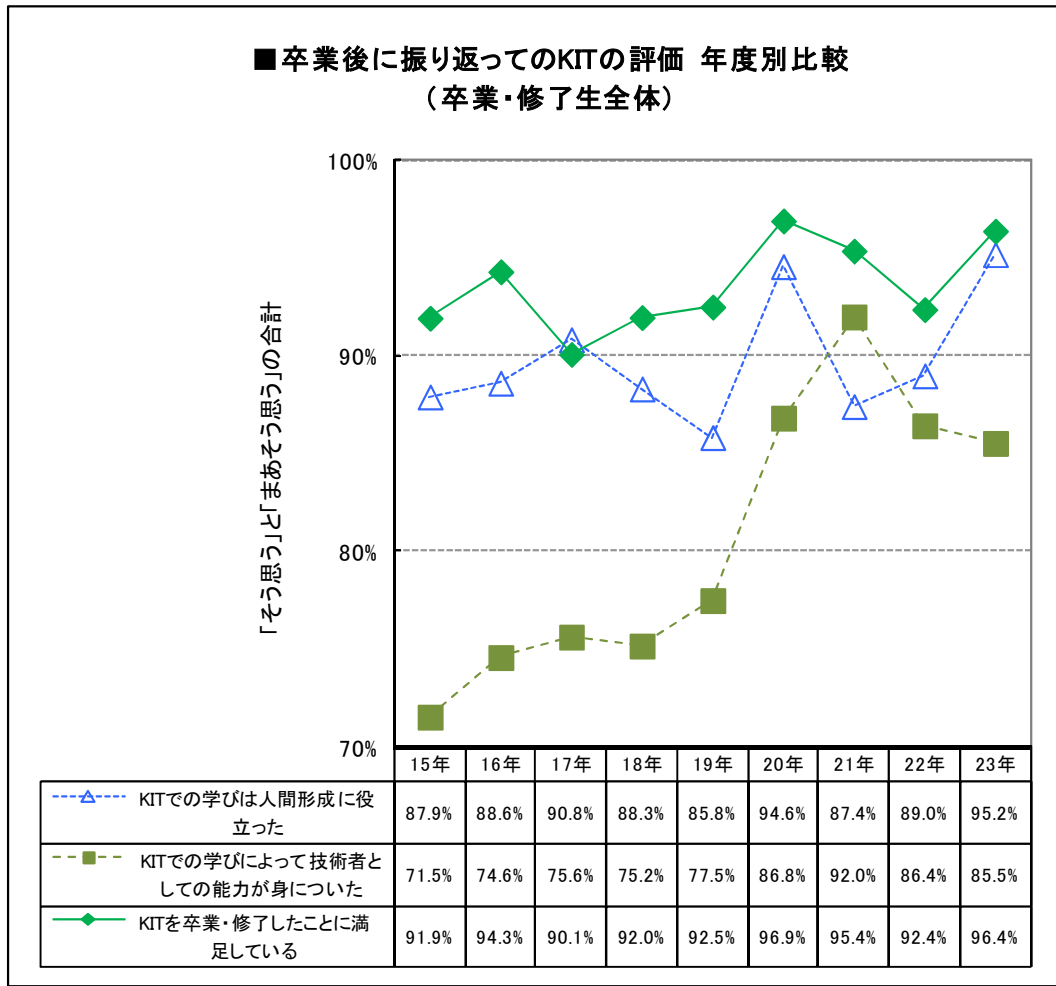
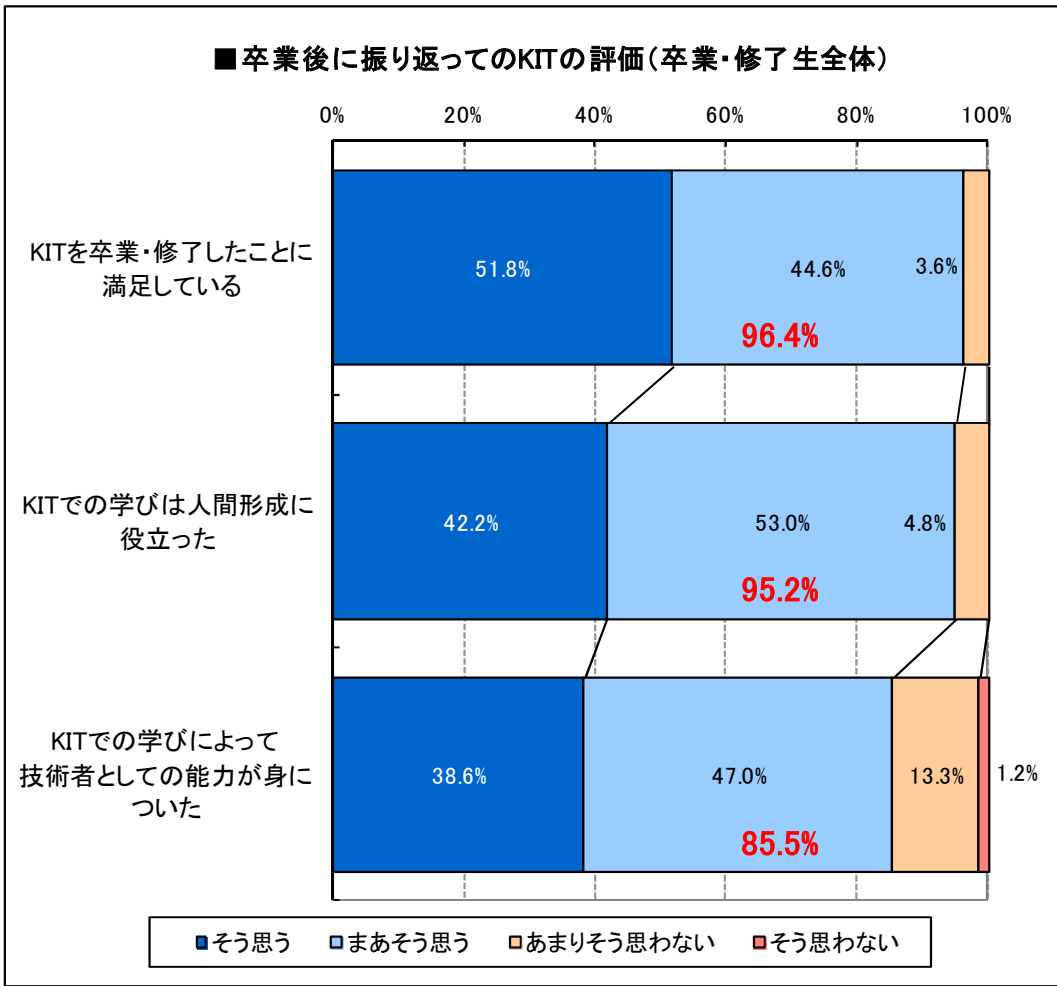
- 「卒業・修了生」の就職・進学支援の評価で、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」を見ると、「満足」が36.5%、「まあ満足」が58.8%で、合わせると満足度は95.3%となり、非常に高い評価となっていた。
- 上記以外の評価を見ると、満足度が最も高かったのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」の96.5%であり、中でも半数近い48.8%が「満足」と答えており、強い満足感がうかがえた。次いで、「進路アドバイザー(教員)との相談」が92.9%、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が91.6%で続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「就職活動支援バス」の72.8%であり、「就職ノート」の76.3%とともに満足度が8割に満たなかったが、これらも決して低いものではなかった。



<7-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価 年度別比較

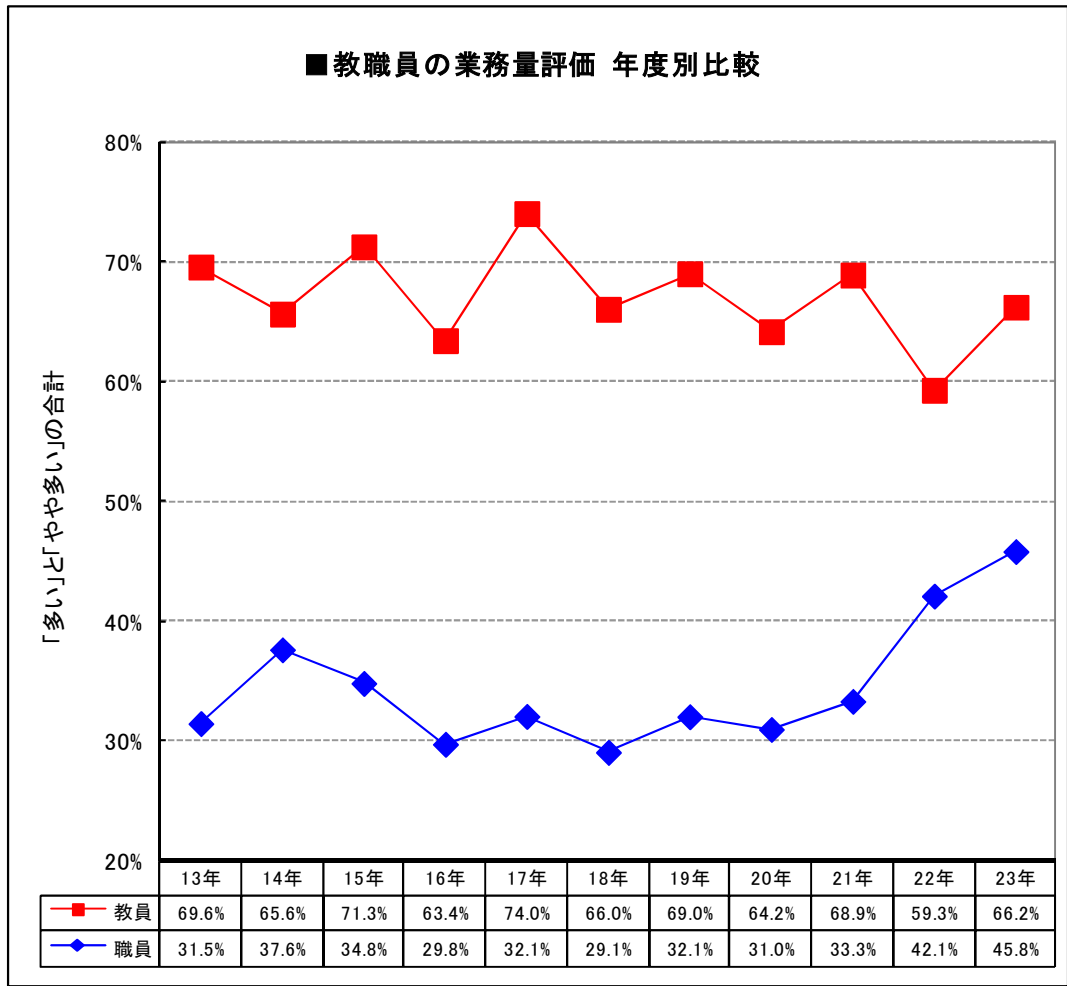
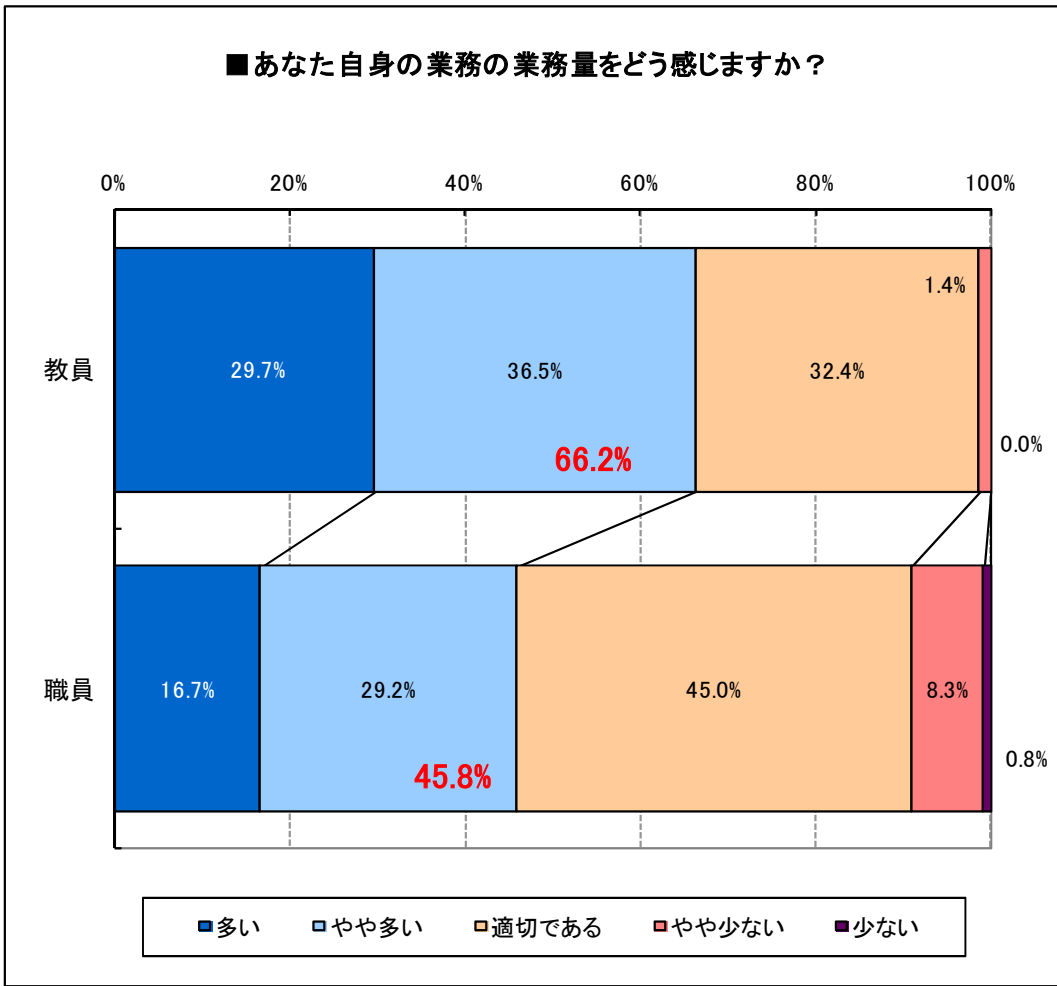
- 卒業後に振り返ってのKITの評価は「卒業生」と「修了生」にのみ聞いている。
- 「KITを卒業・修了したことに満足している」に対しては「そう思う」が51.8%、「まあそう思う」が44.6%であり、合わせると96.4%と非常に高い満足度となっていた。そして、「KITでの学びは人間形成に役立った」は95.2%、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」は85.5%が肯定的な意見であり、これらも非常に高い評価となっていた。
- 年度別に比較すると、「KITを卒業・修了したことに満足している」は前回は4.0ポイント上回って、過去2番目の高さとなっていた。そして、「KITでの学びは人間形成に役立った」は前回は6.2ポイント上回って過去最高となり、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」は前回から0.9ポイント低下していたが、ほぼ横ばいと言えるものであった。



<8-1>業務の状況に関して

■自分自身の業務量

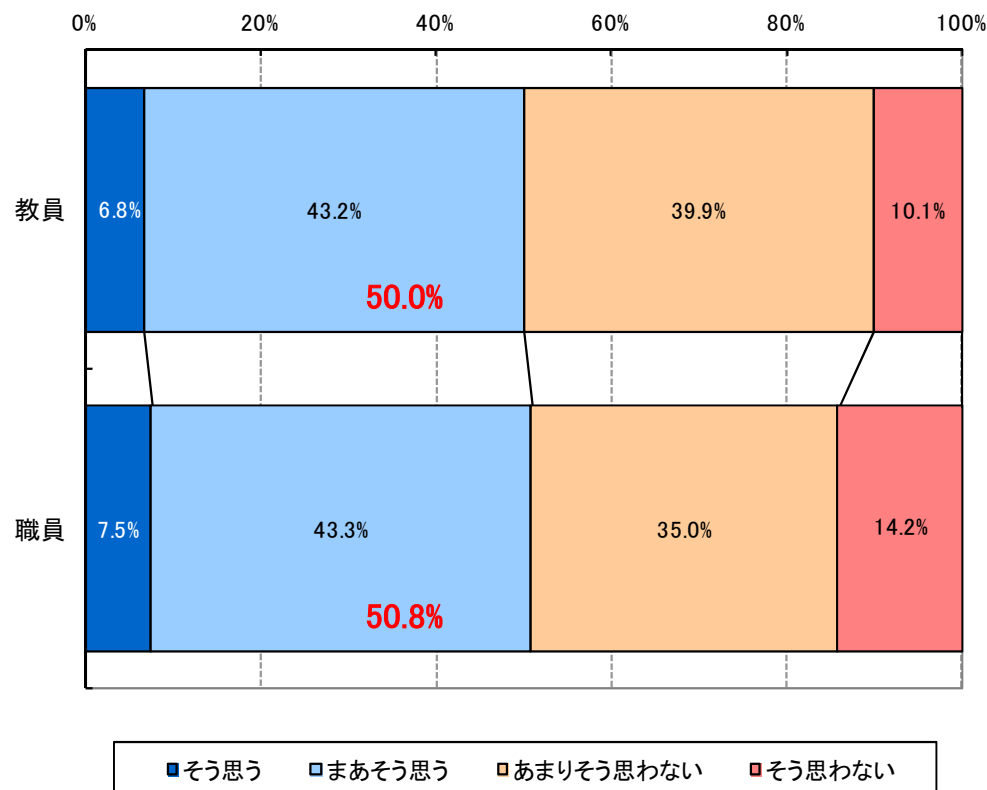
- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」に対して、「教員」では「多い」が29.7%、「やや多い」が36.5%で、合計すると66.2%が業務量が多いと答えており、「適切である」は32.4%と、1/3にとどまっていた。
- 「職員」では「多い」が16.7%、「やや多い」が29.2%で合計すると、45.8%が業務量が多いと答えていた。そして、「適切である」が45.0%であり、「やや少ない」が8.3%、「少ない」が0.8%であった。
- 業務量が多いという回答の年度別比較を見ると、「教員」は増減を繰り返しているが、今回は過去最低だった前回から6.9ポイント増加していた。一方、「職員」はここ数年はゆるやかに増加する傾向が続いており、今回も3.7ポイント増加して過去最高となっており、業務量が増加しているという実感が増していた。



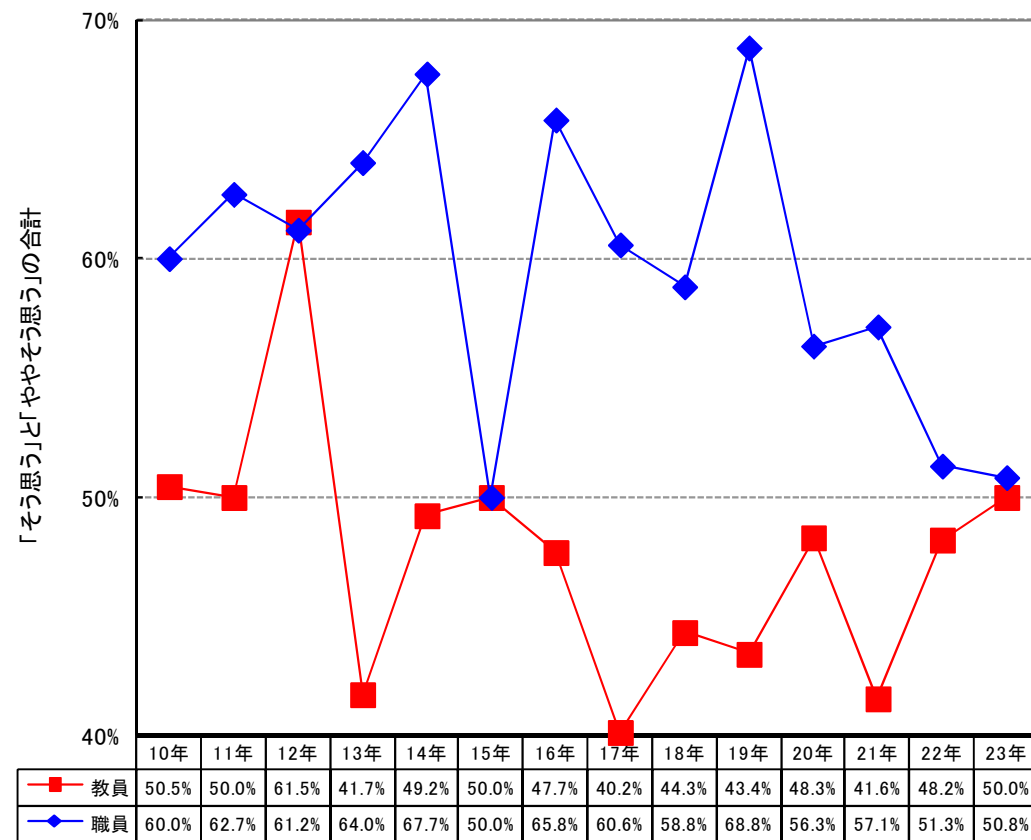
■ 自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」に対して、「教員」では「そう思う」が6.8%、「まあそう思う」が43.2%で、合計すると50.0%と、半数が改善を感じていた。そして、「職員」では「そう思う」が7.5%、「まあそう思う」が43.3%で、合計すると50.8%と、同様に半数が肯定的な意見であった。ただし、「そう思わない」は「職員」がやや多かった。
- 肯定的な意見を年度別に比較すると、「教員」は前回は1.8ポイント上回り、「職員」は0.5ポイント下回っていた。そして、「教員」は2年連続で向上、「職員」は2年連続で低下して、結果的に両者の数値が近いものとなっていた。

■ あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？

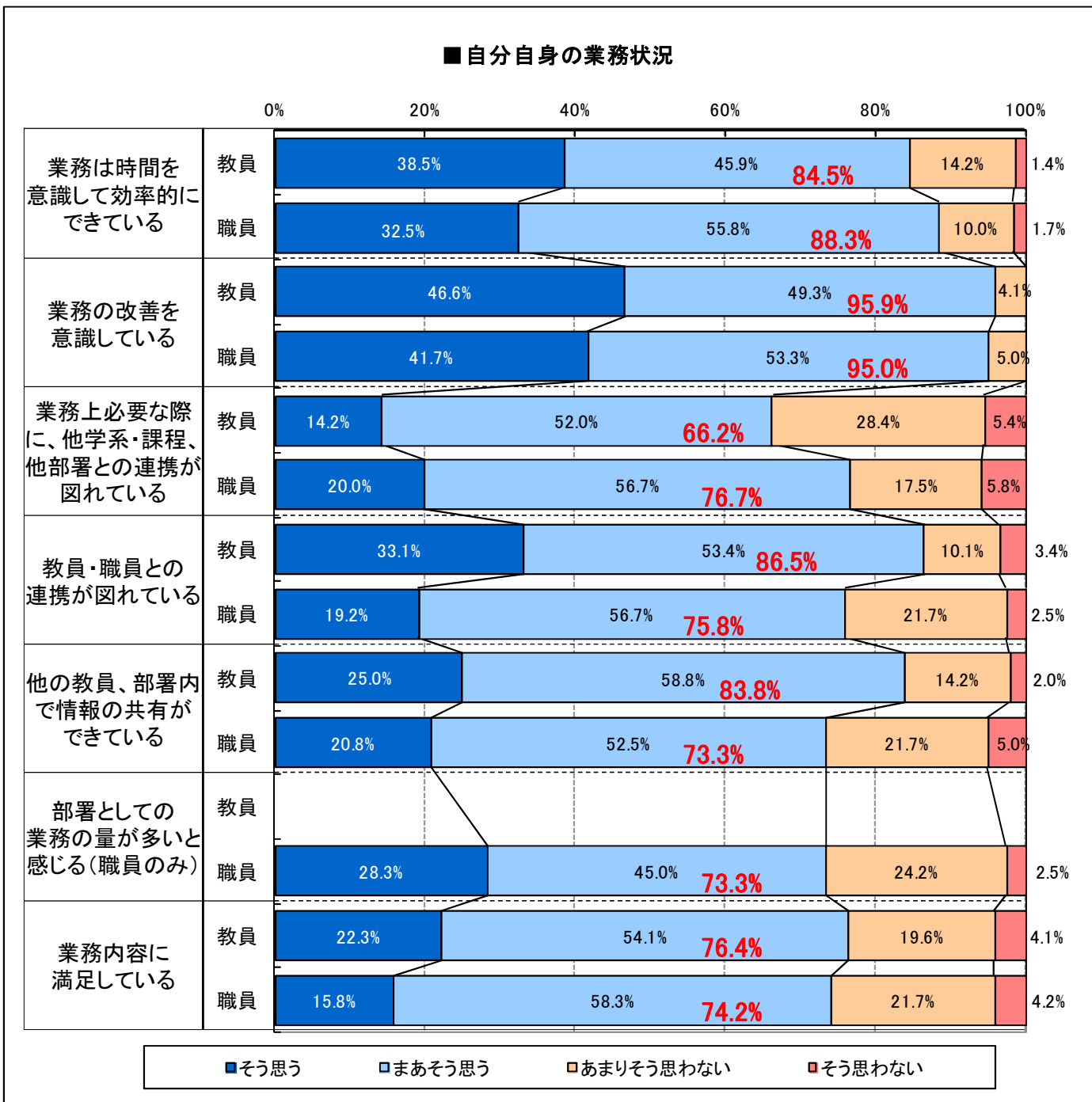


■ 業務の改善状況 年度別比較



■自分自身の業務状況

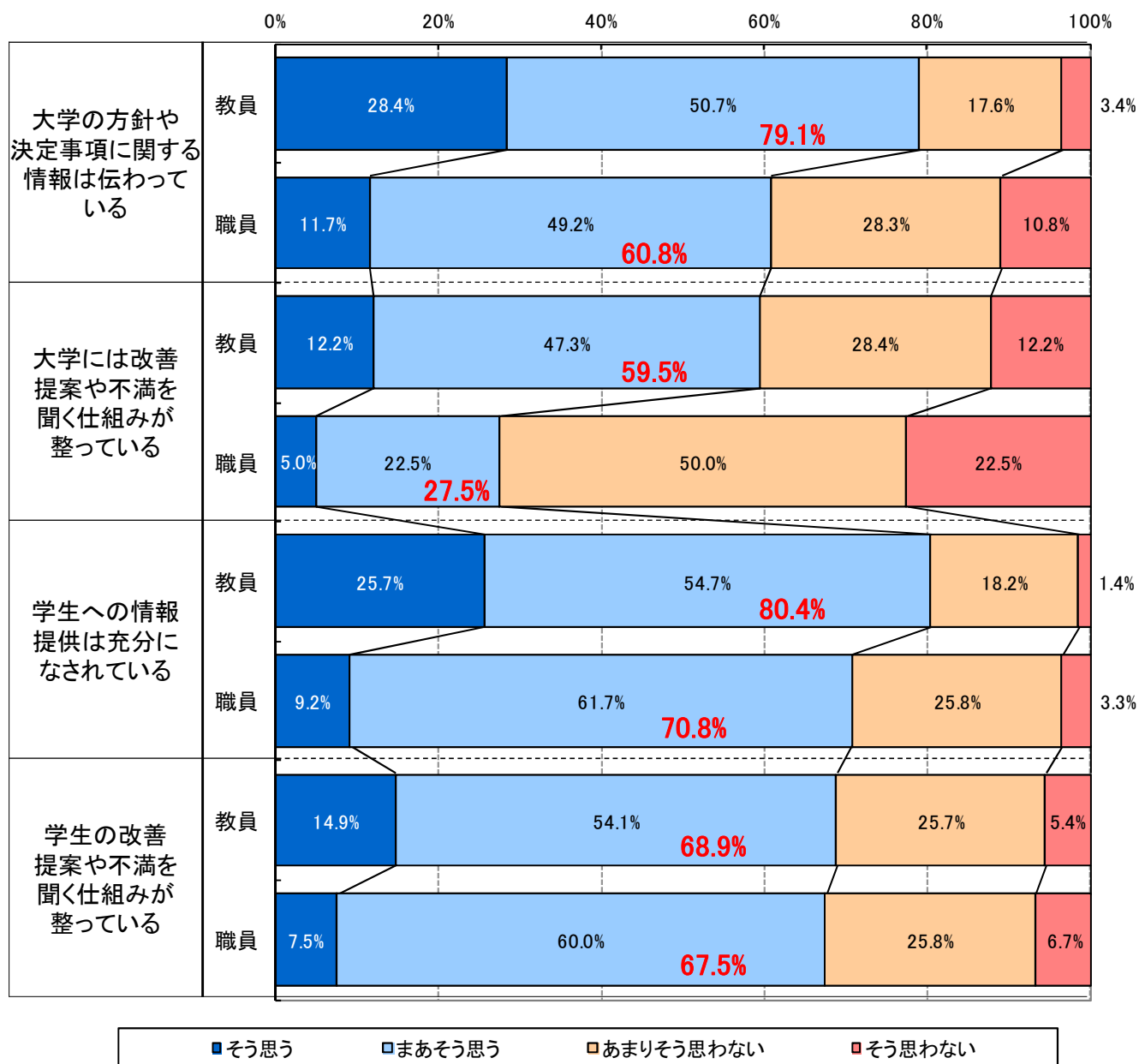
- 自分自身の業務状況に関して、まず、「業務内容に満足している」を見ると、肯定的な意見は「教員」が76.4%、「職員」が74.2%であり、差は2.2ポイントと小さかった。内訳を見ても「教員」で「そう思う」がやや多かったものの、大きな差ではなく、業務に対する両者の満足度はほぼ同じであった。
- 満足度以外の項目では、「教員」「職員」ともに「業務の改善を意識している」で肯定的な意見が多く、「教員」が95.9%、「職員」が95.0%となっていた。また、「業務は時間を意識して効率的にできている」も「教員」が84.5%、「職員」が88.3%と差が少なく、業務に対して両者の意識が一致していた。
- 上記以外の項目では両者の差がやや大きく、「教員・職員との連携が図れている」と「他の教員、部署内で情報の共有ができていない」は「職員」の方が低く、課題を感じているようであった。一方、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」は「教員」の方が低かった。



■大学の改善への取り組み状況

- 大学の改善への取り組み状況の評価は、すべての項目で「教員」の方が肯定的な意見が多く、全体的に「職員」の不満が大きかった。
- 「教員」と「職員」の差の大きさが目立っていたのは「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」であり、肯定的な意見は「教員」の59.5%に対して「職員」は27.5%と極端に少なく、「職員」が大きな不満を持っている様子が見えてきた。
- 上記ほどではないが、「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」と「学生への情報提供は充分になされている」も「職員」の肯定的な意見が少なく、課題を感じているようであった。
- 一方、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」では両者の差は小さく、いずれも7割程度が肯定的な意見となっていた。

■大学の改善への取り組み状況

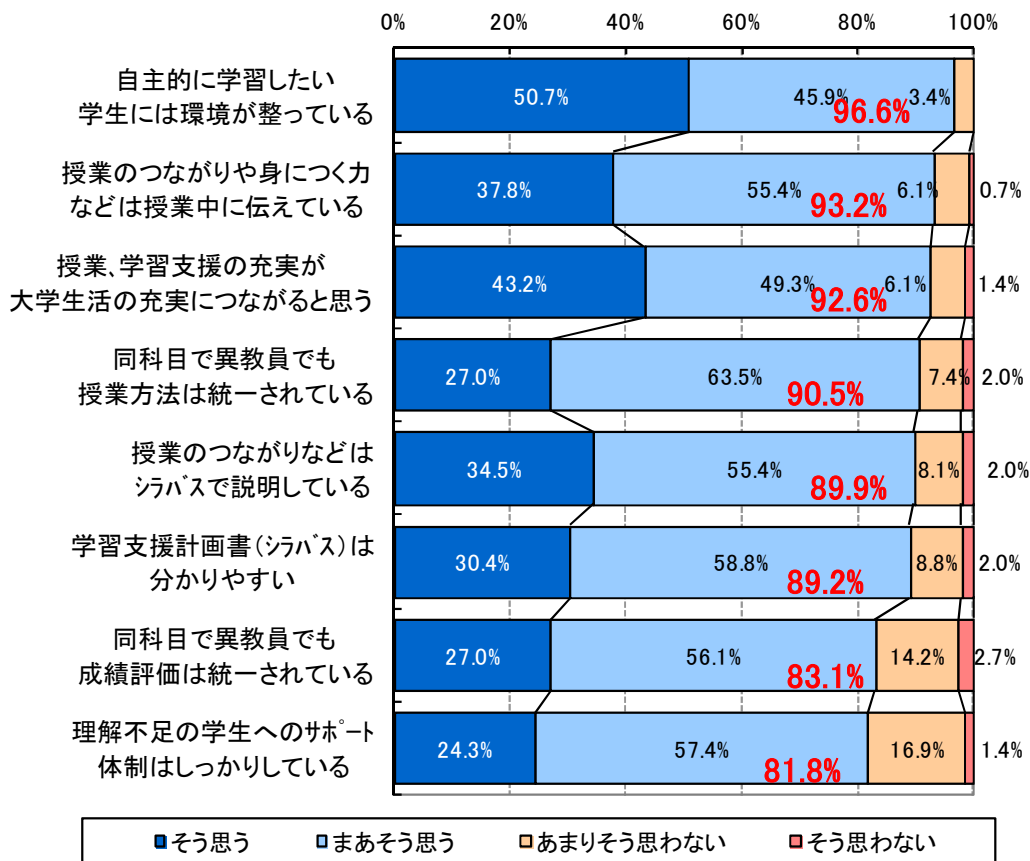


<8-2>教員の授業および学習支援の自己評価

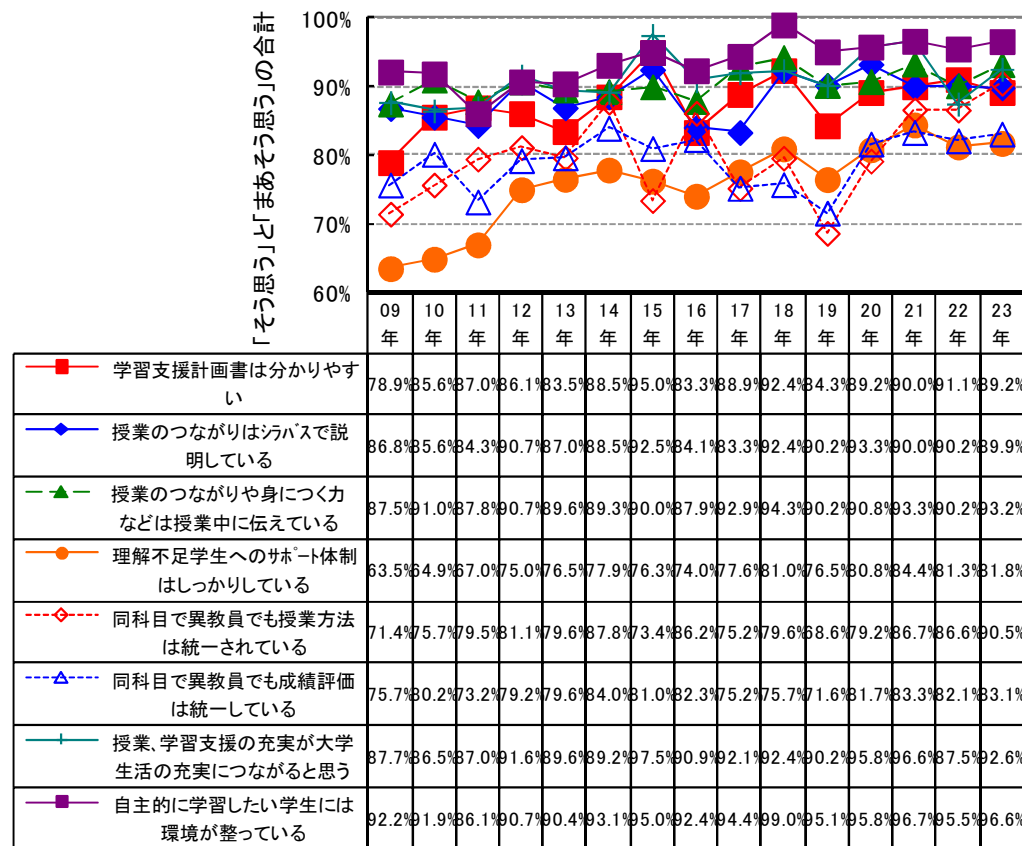
■教員の授業および学習支援の自己評価

- 教員には授業および学習支援の自己評価を聞いているが、肯定的な意見の合計が最も多かったのは「自主的に学習したい学生には環境が整っている」の96.6%であり、「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」が93.2%、「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」が92.6%で続いていた。
- 一方、最も低かったのは「理解不足の学生へのサポート体制はしっかりしている」の81.8%で、次いで「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」が83.1%で続いており、この点はやや課題になると思われる。「同科目で異なる教員の対応」については、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」は90.5%であったが、成績評価には課題を感じているようであった。
- 年度別に比較したところ大きな変化は見られず、ほとんどが横ばいとなっていたが、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」は前回は3.9ポイント上回って、過去最高の評価となっていた。

■教員の授業および学習支援の自己評価



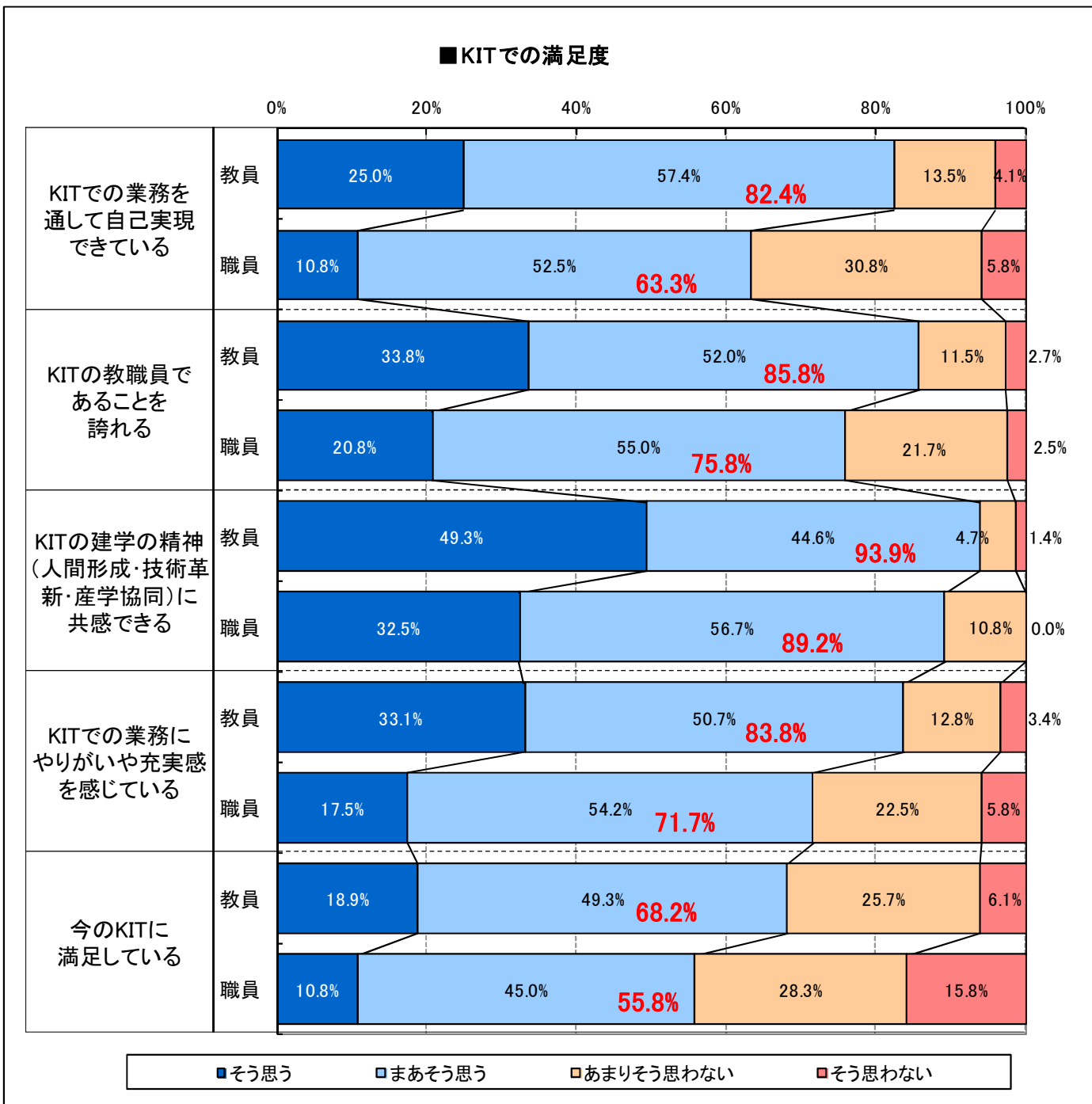
■教員の授業および学習支援の自己評価 年度別比較



<8-3>KITでの満足度

■KITでの満足度

- 最も重要な指標として「今のKITに満足している」を見ると、「教員」では「そう思う」が18.9%、「まあそう思う」が49.3%であり、満足度は68.2%であった。そして、「職員」では「そう思う」が10.8%、「まあそう思う」が45.0%であり、満足度は55.8%と、「教員」を12.4ポイント下回っていた。
- 上記の満足度も含めて、全項目で「教員」の方が肯定的な意見が多かったが、特に差が大きかったのは「KITでの業務を通して自己実現できている」であり、19.1ポイントの差となっていた。次いで、「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」の差は12.1ポイント、「KITの教職員であることを誇れる」の差は10.0ポイントとなっていた。
- 一方、差が小さかったのは「KITの建学の精神(人間形成・技術革新・産学協同)に共感できる」の4.7ポイントであり、「教員」が93.9%、「職員」が89.2%と、いずれも各々の中で最も高かった。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2023 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	令和5年12月1日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁